広報資料

MAZDA
COMPANY PROFILE 2015

マツダ 会社概況 2015

マツダのモノづくりの礎ー
理想を掲げ、
妥協することなく挑み続ける
「飽くなき挑戦」

まだ誰も見たことがないクルマをつくりたい。

どんな困難や大きな壁にぶつかっても、

決してあきらめず夢を追いかけていく。

理想の未来は、挑戦からしか生まれない。

マツダはそんな信念を持って、

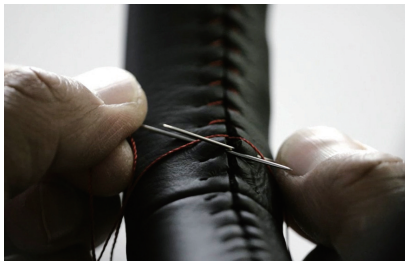
クルマをつくり続けています。

マツダのモノづくりの礎となるもの。

それは、不屈のチャレンジ精神です。

マツダのチャレンジ精神

マツダは広島とともに歩んできた歴史があります。この地で育まれた文化や精神が色濃く反映されています。その代表が不屈のチャレンジ精神。戦後の広島を復興させたのは、このゼロから立ち直る屈強な精神で、明るい未来を願ってチャレンジしていった人々の力。この姿勢は、広島の企業であるマツダにも受け継がれています。誰もが無理だと思うこと、難しいということに敢えて挑む。どんな困難や大きな壁に当たっても、決してあきらめずに夢を追いかける。それが広島の、そしてマツダの精神です。



エンジニアたちの挑戦

「ロータリーエンジン」―小型で軽量かつハイパワーであるこのエンジンは、"夢のエンジン"と言われながらも、"実用化は不可能"というのが当時の常識でした。マツダは、夢のエンジンに未来を託しました。幾多の試行錯誤を繰り返しながらも、飽くなき挑戦の精神で、決してあきらめることなく挑戦し続けました。そしてついに、1967年、マツダは、世界の自動車メーカーで初めて「2ローター・ロータリーエンジン」の実用化に成功しました。

さらなる革新へ

マツダは、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を高次元で両立することを目指しています。そのため、クルマの走行性能を高めるだけではなく、動くことへの感動やときめきを提供できるクルマをめざし、開発やデザインに取り組んでいます。マツダの「SKYACTIV技術」や「魂動デザイン」は、世界各国で数々の賞を受賞し、現在もさらなる進化を遂げています。これからも、マツダは、すべてのお客様にご満足いただくために、理想の未来に向けて、妥協することなく挑み続けます。

公式サイトでは、商品・ブランド・歴史などの詳しい情報を掲載しています。また、ソーシャルメディア公式アカウントでは、最新情報だけでなく、ブランドエッセンスビデオをはじめとする素材を発信しています。
（公式サイトURL: http://www.mazda.co.jp/）

目次 Contents

03 企業ビジョン、構造改革プランとブランド価値経営

05 会社の概要と実績

07 役員

09 主な子会社・関連会社

11 研究開発・地域別の活動

13 日本

17 北米

19 欧州

21 中国

23 アジア・大洋州

25 カリブ・中南米・中近東・アフリカ

27 環境・安全技術デザイン

31 社歴

コーポレートビジョン

コーポレートビジョン※

私たちはクルマをこよなく愛しています。

人々と共に、クルマを通じて豊かな人生を過ごしていきたい。

未来においても地球や社会とクルマが共存している姿を思い描き、

どんな困難にも独創的な発想で挑戦し続けています。

1.カーライフを通じて人生の輝きを人々に提供します。

2.地球や社会と永続的に共存するクルマをより多くの人々に提供します。

3.挑戦することを真剣に楽しみ、独創的な"道(どう)"を極め続けます。

※マツダは2015年4月、コーポレートビジョンを以下の目的で改訂し、全てのステークホルダーから広く信頼される企業グループとしてさらに成長していきます。
・マツダの個性をより明確に定義することでマツダグループのあらゆる企業活動が一体となって動いていきます。
・マツダグループの全従業員がコーポレートビジョンの目指すゴールについて語り合いを繰り返し、共有・理解・納得するプロセスを促進します。
・コーポレートビジョンを日々の業務に密接に結び付けます。

「マツダ」の由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー(Ahura Mazda)に由来します。この叡智・理性・調和の神を、東西文明の源泉的シンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとして捉え、また世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、自動車事業をはじめた松田重次郎の姓にもちなんでいます。

マツダブランドシンボル

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの＜M＞の形に象徴しています(1997年6月制定)。

マツダコーポレートマーク

1975年のCI導入を機に、コミュニケーションの核となる企業シンボルとして制定しました。その後1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置づけています(1975年1月制定)。

ブルーは「環境や安全に対して社会的責任を果たすという自動車メーカーとしての企業姿勢を表すと同時に、品質・技術力を感じさせる」との考えの下、ブルーをコーポレートカラーとして採用しています。

マツダのブランドスローガン"Zoom-Zoom*"(ズーム・ズーム)

創造性と革新性で、子どものときに感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に「心ときめくドライビング体験」を提供したいというマツダの想いを示した言葉です(2002年4月発表)。

※日本語の「ブーブー」(車が動くときの音)を意味する英語。

成長戦略

構造改革ステージ2　質的成長／ブランド価値向上を目指して

マツダでは、2012年２月、厳しい外部環境への対応と将来の成長を確実にするために「構造改革プラン」を発表し、主要施策を実施してきました。SKYACTIVによるビジネス革新は着実に成果が出ており、2012年以来、台数、利益ともに成長を実現してきました。しかし、主要施策の各領域では、まだ改善の余地があると考えています。そこで、2017年3月期から新たにスタートする3ヵ年の中期経営計画「構造改革ステージ2」では、「構造改革プラン」での主要施策をより高いステージに引き上げ、着実な台数成長を持続させながら、商品・販売・生産・財務の各領域でビジネス効率を高めるなど「質的成長」を図り、本格的な「ブランド価値向上」に向けた取り組みを加速します。具体的には、SKYACTIV商品群の継続的進化と新型車の導入により、台数成長を持続しつつ、ブランド・ 販売ネットワーク・グローバル生産効率などビジネス基盤を強化します。また、開発・生産・調達が一体となったグローバル一括企画により、最適コモンアーキテクチャーを実現し、さらに高効率・高性能なSKYACTIV GEN2モデルの投入を開始します。さらに、強固な財務基盤構築にあわせ、配当性向を改善していきます。

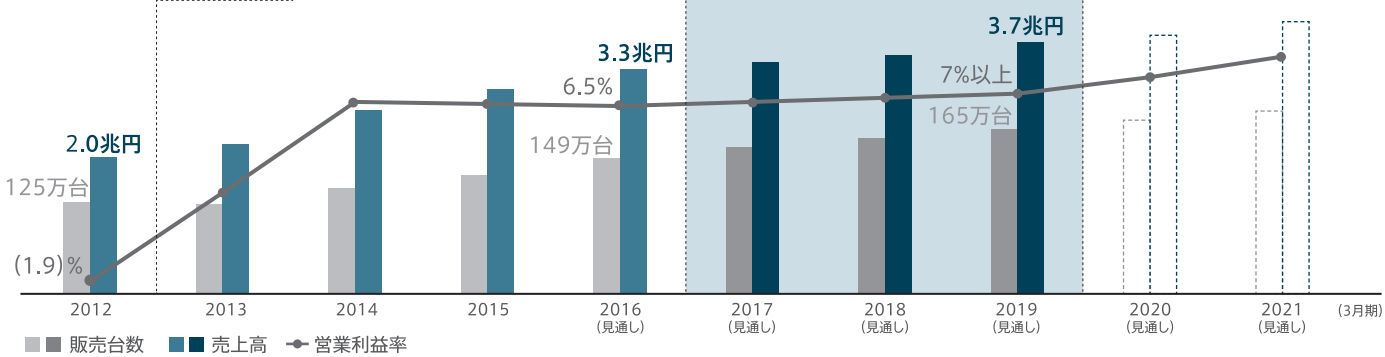
2016年3月期 経営指標
グローバル販売台数
149万台

2016年3月期 経営指標
営業利益
2,100億円

2016年3月期 経営指標
売上高営業利益率
6.5%以上

為替前提:
USドル 100円
ユーロ 135円

	構造改革プラン（2013年3月期～2016年3月期） 構造改革による事業構造の転換	構造改革ステージ2（2017年3月期～2019年3月期） 質的成長／ブランド価値向上	次期中期経営計画（2020年3月期～） さらなる持続的成長
商品・開発	SKYACTIV TECHNOLOGY GEN1	● SKYACTIV商品の継続的進化 ● GEN2モデル開発・投入開始	● GEN2本格導入 ● 電気駆動強化 GEN2
ブランド・販売	● 正価販売と台数成長 ブランド価値向上に着手	● 販売戦略浸透に向けた 現場改革を推進	● 商品の大幅強化による 台数成長
グローバル生産	● メキシコ・タイ・ロシア・ マレーシアなどでの生産体制強化	● 工場稼働率最大化により 販売拡大をサポート	● 量的成長に向けた 生産能力拡充
財務基盤強化	● 円高環境下でも利益を創出する 収益構造への転換 ● 財務基盤の回復および復配	● 強固な財務基盤構築 ● 配当性向改善	● 成長と収益性向上の両立 ● 資本効率・ROEの向上



(注) GEN1：SKYACTIV Generation1、GEN2：SKYACTIV Generation2の略称
(注)「構造改革ステージ2」に続く次期中期経営計画2020年3月期～）でのさらなる成長に向けた判断は、事業環境などの変化を踏まえ、「構造改革ステージ2」期間中に行います。

会社の概要と実績

会社概要(2015年3月31日時点)

社　　名	マツダ株式会社(英訳名: Mazda Motor Corporation)
会社設立	1920年(大正9年)1月30日
本　　社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号
代 表 者	代表取締役 社長兼CEO　小飼 雅道
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売など
株　　式	発行可能株式総数　1,200,000,000株 発行済株式総数　599,875,479株 株 主 数　150,386名
資 本 金	2,589億5,709万6,762円
従業員数	単体　男性: 19,407名　女性: 1,888名　合計: 21,295名(出向者を含む) 連結　合計: 44,035名
研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダノースアメリカンオペレーションズ(米国)、 マツダモーターヨーロッパ(ドイツ)、中国技術支援センター(中国)
生産拠点	国　内: 本社工場(本社、宇品)、防府工場(西浦、中関)、三次事業所 海　外: 中国、タイ、メキシコ、南アフリカ、エクアドル、台湾、ベトナム※1、マレーシア※2、ロシア※2
販売会社	国　内: 240社 海　外: 144社
主要製品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、自動車用手動／自動変速機

※1 一部車種は現地組立(生産台数は公表対象外)
※2 現地組立のみ(生産台数は公表対象外)

グローバル生産

(2015年3月31日時点)(台)

		2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
グローバル		1,277,494	1,185,222	1,200,014	1,269,296	1,375,064
	国　内	866,992	846,574	879,129	972,533	919,405
	海　外	410,502	338,648	320,885	296,763	455,659

グローバル販売

(2015年3月31日時点)(台)

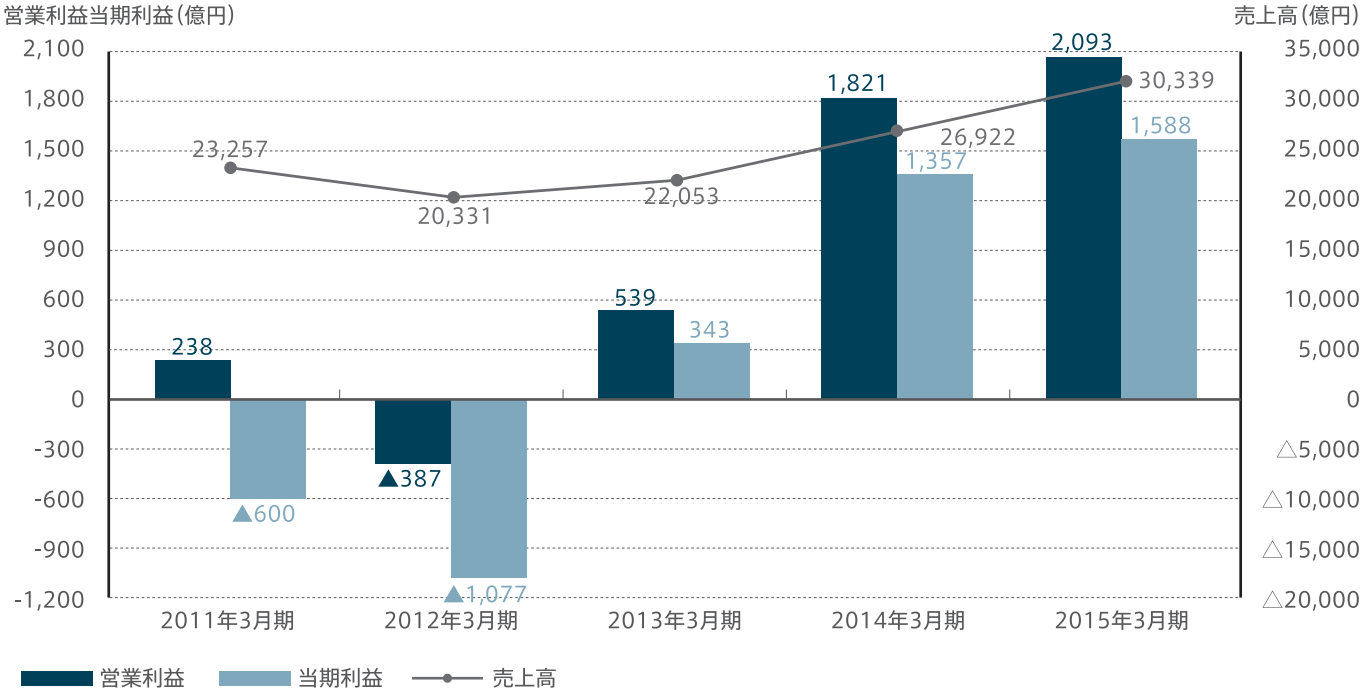
		2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
グローバル		1,272,195	1,246,377	1,234,431	1,330,936	1,397,294
	国　内	205,885	205,538	216,257	243,598	224,540
	海　外	1,066,310	1,040,839	1,018,174	1,087,338	1,172,754

最近の業績（連結ベース）（2015年3月31日時点）

項目		単位	2011年3月期 ('10.4～'11.3)	2012年3月期 ('11.4～'12.3)	2013年3月期 ('12.4～'13.3)	2014年3月期 ('13.4～'14.3)	2015年3月期 ('14.4～'15.3)
	国内	(億円)	5,415	5,602	5,880	6,557	6,174
	海外	(億円)	17,842	14,729	16,173	20,365	24,165
売上高		(億円)	23,257	20,331	22,053	26,922	30,339
営業利益		(億円)	238	△ 387	539	1,821	2,029
経常利益		(億円)	369	△ 368	331	1,407	2,126
税引前当期利益		(億円)	161	△ 553	391	974	2,093
当期利益		(億円)	△ 600	△ 1,077	343	1,357	1,588
設備投資額		(億円)	447	780	772	1,332	1,310
減価償却費		(億円)	716	688	600	577	689
研究開発費		(億円)	910	917	899	994	1,084
総資産		(億円)	17,718	19,159	19,786	22,460	24,733
有利子負債残高		(億円)	6,930	7,781	7,190	7,427	7,010
純有利子負債残高		(億円)	3,702	3,008	2,741	2,630	1,719
フリーキャッシュフロー		(億円)	16	△ 794	87	163	1,089
生産台数	国内	(千台)	867	847	879	973	919
	海外	(千台)	411	338	321	296	456
		(千台)	1,278	1,185	1,200	1,269	1,375
販売台数	国内	(千台)	206	206	216	244	225
	北米	(千台)	342	372	372	391	425
	欧州	(千台)	212	183	172	207	229
	中国	(千台)	236	223	175	196	215
	その他	(千台)	277	263	300	293	303
		(千台)	1,273	1,247	1,235	1,331	1,397

(注) フリーキャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローと投資活動によるキャッシュフローの合計。

業績推移



役員紹介（2015年10月1日時点）

取締役

代表取締役会長
金井　誠太（かない　せいた）

代表取締役
小飼　雅道（こがい　まさみち）

代表取締役
丸本　明（まるもと　あきら）

取締役
原田　裕司（はらだ　ゆうじ）

取締役
中峯　勇二（なかみね　ゆうじ）

取締役
稲本　信秀（いなもと　のぶひで）

取締役
坂井　一郎（さかい　いちろう）

取締役
城納　一昭（じょうのう　かずあき）

監査役

監査役（常勤）

栃尾　信義（とちお　のぶよし）
河村　裕章（かわむら　ひろふみ）

監査役

赤岡　功（あかおか　いさお）
平澤　正英（ひらさわ　まさひで）
堀田　隆夫（ほった　たかお）

執行役員 (注)※印は取締役との兼務を示す。

※ 社長兼CEO（最高経営責任者）	小飼　雅道(こがい　まさみち)	
※ 副社長執行役員	丸本　明(まるもと　あきら)	社長補佐、米州事業・企画領域統括
※ 専務執行役員	原田　裕司(はらだ　ゆうじ)	第二法人販売・財務統括、CSR・環境・グローバル広報担当
	中峯　勇二(なかみね　ゆうじ)	欧州・豪亜・中ア・新興国事業統括
	稲本　信秀(いなもと　のぶひで)	中国事業・国内営業・第一法人販売統括、グローバル監査担当、マツダ(中国)企業管理有限公司董事長
常務執行役員	ジェームズ・ジェイ・オサリバン(James J. O'Sullivan)	マツダモーターオブアメリカ, Inc.(マツダノースアメリカンオペレーションズ)社長兼CEO
	江川　恵司(えがわ　けいし)	新興国事業(中南米)担当、マツダモトールマヌファクトゥリングデメヒコS.A. de C.V.(マツダデメヒコビークルオペレーション)社長兼CEO
	ジェフリー・エイチ・ガイトン(Jeffrey H. Guyton)	マツダモーターヨーロッパGmbH社長兼CEO
	光田　稔(みつだ　みのる)	第三法人販売・東京本社統括、渉外担当、企画・広報担当補佐
	菖蒲田　清孝(しょうぶだ　きよたか)	グローバル生産・グローバル物流・グローバル商品品質・ブランド品質担当
	藤原　清志(ふじわら　きよし)	研究開発・コスト革新担当、R&Dリエゾン室長、株式会社マツダE&T代表取締役社長
	毛籠　勝弘(もろ　まさひろ)	営業領域総括、グローバルマーケティング・カスタマーサービス・販売革新担当
	古賀　亮(こが　あきら)	マツダモーターオブアメリカ, Inc.(マツダノースアメリカンオペレーションズ)執行副社長(EVP)
	古玉　尚(ふるたま　たかし)	経営企画・収益管理・グローバルITソリューション担当
	人見　光夫(ひとみ　みつお)	技術研究所・パワートレイン開発・統合制御システム開発担当
	圓山　雅俊(まるやま　まさとし)	グローバル生産担当補佐、本社工場長
	藤賀　　猛(ふじが　たけし)	グローバル人事・安全担当
	藤川　和久(ふじかわ　かずひさ)	グローバル購買担当、コスト革新担当補佐
	福原　和幸(ふくはら　かずゆき)	国内営業・法人販売担当、マツダ中販株式会社代表取締役社長
執行役員	渡部　宣彦(わたべ　のぶひこ)	中国事業担当、中国事業本部長、マツダ(中国)企業管理有限公司執行総裁
	西山　雷大(にしやま　らいた)	株式会社関東マツダ代表取締役社長
	前田　育男(まえだ　いくお)	デザイン本部長
	川上　英範(かわかみ　ひでのり)	マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド)Co., Ltd.社長兼CEO
	藤本　哲也(ふじもと　てつや)	財務担当、財務本部長
	井上　寛(いのうえ　ひろし)	新興国事業(除く中南米)担当、マツダ・サウス・イースト・アジア, Ltd.社長
	吉原　誠(よしはら　まこと)	秘書・総務・法務・コンプライアンス・リスクマネジメント・病院担当、総務・法務室長
	青山　裕大(あおやま　やすひろ)	グローバル販売&マーケティング本部長
	廣瀬　一郎(ひろせ　いちろう)	パワートレイン開発本部長
	向井　武司(むかい　たけし)	防府工場長

主な子会社・関連会社

連結子会社 59社 (2015年3月31日時点)

会社名	所在国	所有率	業務内容
マツダ中販㈱	日本	100.0%	中古自動車販売
㈱マツダオートザム	日本	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターインターナショナル㈱	日本	100.0%	自動車販売
マツダエース㈱	日本	100.0%	防災・運輸・印刷受注
マツダロジスティクス㈱	日本	100.0%	自動車および部品運送
倉敷化工㈱	日本	75.0%	自動車部品製造販売
㈱マツダE&T	日本	100.0%	特装車架装および販売
マツダパーツ㈱	日本	100.0%	自動車部品の販売
㈱函館マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱東北マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱福島マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱北関東マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱甲信マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱関東マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
静岡マツダ㈱	日本	100.0%	自動車および部品販売
東海マツダ販売㈱	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱北陸マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱京滋マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱関西マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱西四国マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱九州マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
㈱南九州マツダ	日本	100.0%	自動車および部品販売
沖縄マツダ販売㈱	日本	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターオブアメリカ, Inc.	米国	100.0%	自動車および部品販売
マツダカナダ Inc.	カナダ	100.0%	自動車および部品販売
マツダモトールデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	自動車および部品販売
マツダセルヴィシオスデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	マツダモトールデメヒコに対する人材サービス
マツダモトールマヌファクトゥリングデメヒコS.A. de C.V.	メキシコ	70.0%	自動車製造販売
マツダモトールオペラシオネスデメヒコS.A. de C.V.	メキシコ	70.0%	マツダモトールマヌファクトゥリングデメヒコに対する人材サービス
マツダモータース(ドイツランド)GmbH	ドイツ	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.	ベルギー	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターヨーロッパGmbH	ドイツ	100.0%	欧州市場の事業統括
マツダオトモビルフランスS.A.S.	フランス	100.0%	自動車および部品販売
マツダモータースUK Ltd.	イギリス	100.0%	自動車および部品販売
マツダスイスS.A.	スイス	100.0%	自動車および部品販売
マツダモトールデポルトガルLda.	ポルトガル	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターイタリア, S.r.l	イタリア	100.0%	自動車および部品販売
マツダオートモービルズエスパーニャ, S.A.	スペイン	100.0%	自動車および部品販売
マツダオーストリアGmbH	オーストリア	100.0%	自動車および部品販売
マツダモーターロシア, OOO	ロシア	100.0%	自動車および部品販売
マツダオーストラリアPty. Ltd.	オーストラリア	100.0%	自動車および部品販売
マツダモータースオブニュージーランドLtd.	ニュージーランド	100.0%	自動車および部品販売
マツダセールス(タイランド)Co., Ltd.	タイ	96.1%	自動車および部品販売
マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド)Co., Ltd.	タイ	100.0%	自動車部品製造販売
PTマツダモーターインドネシア	インドネシア	100.0%	自動車および部品販売
マツダマレーシアSdn. Bhd.	マレーシア	70.0%	自動車製造(委託生産)・販売
マツダ(中国)企業管理有限公司	中国	100.0%	中国市場の事業統括
マツダサザンアフリカ(Pty)Ltd	南アフリカ	100.0%	自動車および部品販売
台湾マツダ汽車股份有限公司	台湾	100.0%	自動車および部品販売
マツダデコロンビアS.A.S.	コロンビア	100.0%	自動車および部品販売
その他　9社	ー	ー	ー

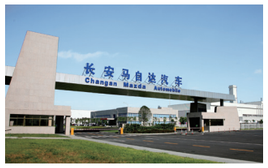
持分法適用関連会社 14社 (2015年3月31日時点)

会社名	所在国	所有率	業務内容
トーヨーエイテック㈱	日本	30.0%	工作機械製造販売
㈱日本クライメイトシステムズ	日本	33.3%	自動車部品製造販売
ヨシワ工業㈱	日本	33.3%	自動車部品製造販売
㈱サンフレッチェ広島	日本	17.1%	プロサッカー球団運営
㈱マツダプロセシング中国	日本	29.0%	納車点検・架装
SMMオートファイナンス㈱	日本	49.0%	自動車販売金融事業
MCMエネルギーサービス㈱	日本	40.0%	電力・蒸気の供給事業
マツダソラーズマヌファクトゥリングルースLLC	ロシア	50.0%	自動車製造販売
オートアライアンス(タイランド)Co., Ltd.	タイ	50.0%	自動車製造販売
長安マツダ汽車有限公司	中国	50.0%	自動車製造販売
長安フォードマツダエンジン有限公司	中国	25.0%	自動車部品製造販売
一汽マツダ汽車販売有限公司	中国	40.0%	自動車および部品販売
その他　2社	ー	ー	ー

研究開発・地域別の活動

本社工場

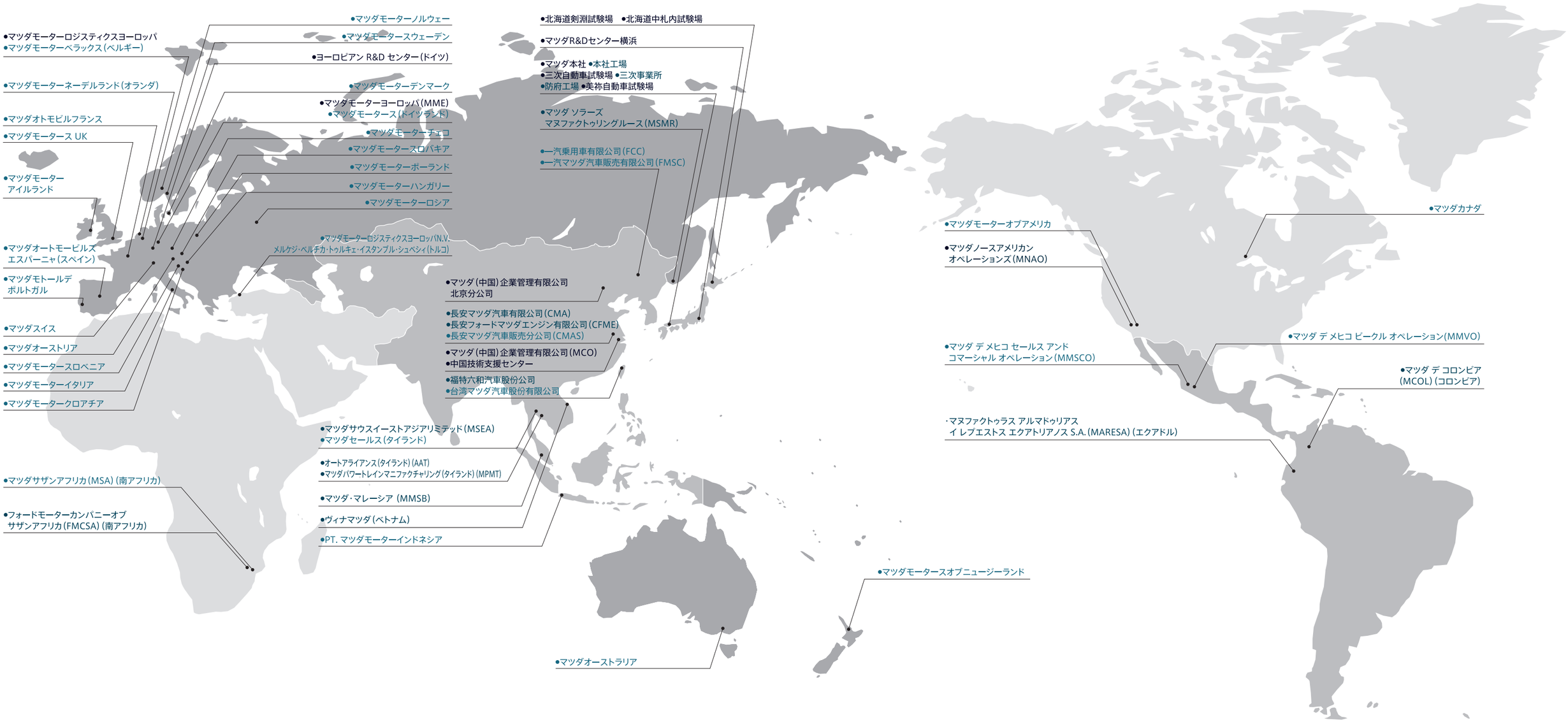
防府工場



長安マツダ汽車

オートアライアンス(タイランド)

マツダ デ メヒコ ビークル オペレーション



グローバル販売台数
1,397,294台

グローバルでの販売会社数
384社

従業員数(連結)
44,035人

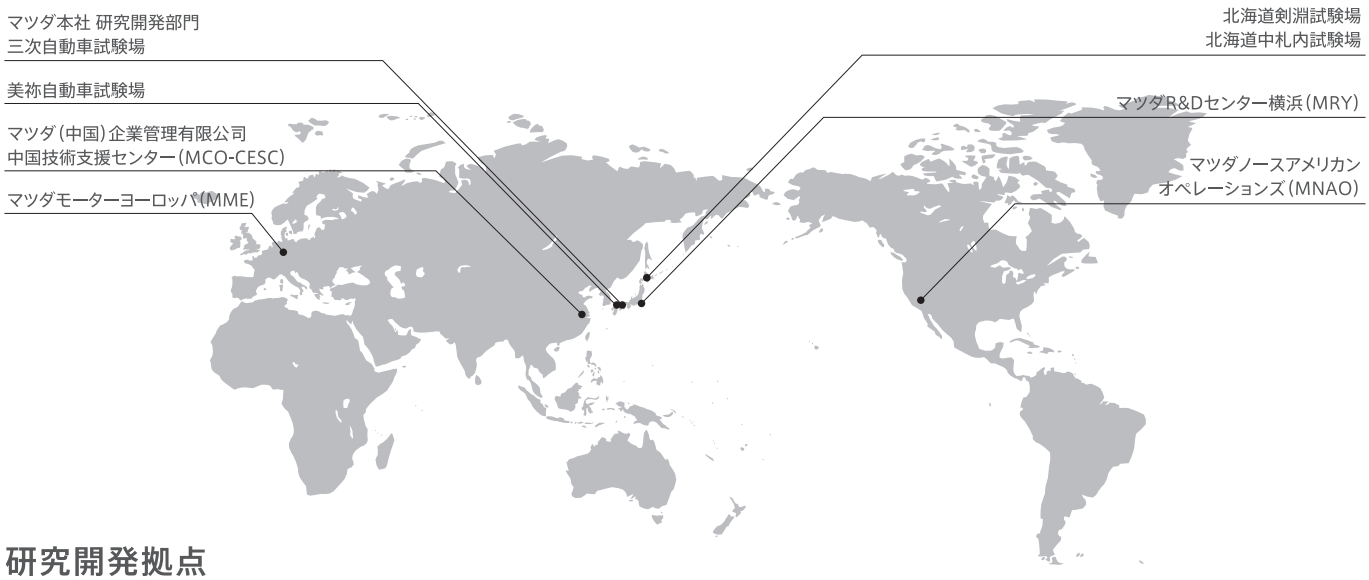
営業利益(連結)
2,029億円

当期純利益(連結)
1,588億円

事業統括・研究開発
生産拠点
販売拠点

※ 数値はすべて2015年3月期の実績

研究開発



研究開発拠点

世界の市場動向、先端的な技術動向を迅速かつ的確に把握し、それぞれの市場特性にマッチした個性的でイノベーティブな商品開発を推進しています。そのため、日米欧中に研究開発拠点を置いています。

	名　称	所在地	主な研究内容
日　本	本社　研究開発部門	広島県安芸郡府中町	・商品、技術企画 ・デザイン開発 ・商品開発および育成 ・重要新技術の先行研究
	マツダR&Dセンター横浜 (略称: MRY)	神奈川県横浜市	・先行商品の企画 ・先行デザインの調査研究、開発 ・重要新技術の先行研究
米　国	マツダノースアメリカン オペレーションズ(略称: MNAO)※1	カリフォルニア州アーバイン ミシガン州フラットロック	・北米市場における技術／市場動向などの調査、研究 ・北米市場におけるデザインの開発 ・北米市場における商品適合性評価
欧　州	マツダモーターヨーロッパ (略称: MME)	ドイツ ヘッセン州 オーバーウァゼル	・欧州市場における技術/市場動向などの調査、研究 ・欧州市場におけるデザインの開発 ・欧州市場における商品適合性評価
中　国	マツダ(中国)企業管理有限公司 中国技術支援センター(略称: MCO-CESC)	上海市	・中国市場における技術／市場動向などの調査、研究

※1「マツダモーターオブアメリカ,Inc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコS. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ(MNAO)」と呼んでいる。

総合自動車試験場

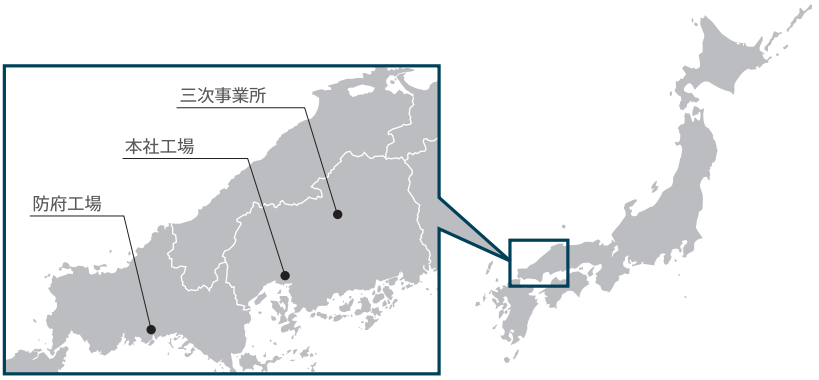
名　称	所在地	開　設	土地面積	主な研究内容
三次自動車試験場	広島県三次市	1965年06月	1,677千m²	新商品の基本性能開発・育成の拠点として、クルマに要求される、走る・曲がる・止まるの走行テストを実施するとともに、大型の試験設備を駆使して、安全技術、環境技術の開発に取り組んでいます。
美祢自動車試験場	山口県美祢市	2006年05月	603千m²	三次自動車試験場にないテストコースを新設し、操縦安定性の限界テスト等、車の商品性向上に寄与しています。
北海道剣淵試験場	北海道上川郡剣淵町	1990年01月	4,700千m²	積雪路面での4WD・ABS・TCS※2・DSC※3など、安全走行システムの開発テストや、氷・雪害などに対する技術開発・商品性能向上等、寒冷地特有のテストを行っています。
北海道中札内試験場	北海道河西郡中札内村	2002年01月	206千m²	さまざまな気象環境条件の下での、車両の性能を開発するための北海道内2番目の試験場です。主に、凍結路面でのABS・TCS・DSCなどの安全走行システムの開発テストを行っています。

※2 TCS(トラクションコントロールシステム):路面、および走行状況に即応して駆動力を最適化する機構。
※3 DSC(ダイナミック・スタビリティ・コントロール):4輪ABS(アンチロックブレーキシステム)とトラクションコントロールの機能を統合し、エンジン出力制御と4輪個別の制動力を最適に制御することによって、クルマの横滑り防止を図る機構である。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のための急ハンドル操作時などにも、安定した走行姿勢を保つ。

地域別の活動／日本

●マツダは、1931年に3輪トラックの生産を開始し、自動車事業をスタートしました。1960年には軽自動車「R360クーペ」の生産を開始し、乗用車部門へ本格的に参入しました。

●マツダは広島と防府の2拠点に工場を持ち、独自のフレキシブルな高品質・同期生産ラインを構築しています。



日本での生産活動

生産拠点概要

所在地	名　称	地　区		生産品目	生産能力	操業開始	土地面積
広島県安芸郡府中町	本社工場	本社		ガソリンレシプロエンジン、自動車用手動変速機		1931年 3月	551千㎡
		宇品	宇品第1(U1)工場	MPV、CX-9※、ロードスター、ベリーサ、ビアンテ、CX-5、CX-3、ボンゴバン	274,200台／年	1966年11月	1,685千㎡
			宇品第2(U2)工場	プレマシー、CX-5	240,600台／年	1972年12月	
				ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン		1964年12月	
広島県三次市	三次事業所			ガソリンレシプロエンジン		1974年 5月	1,677千㎡
山口県防府市	防府工場	西浦	防府第1(H1)工場	アクセラ、デミオ	240,600台／年	1982年 9月	792千㎡
			防府第2(H2)工場	アテンザ	240,600台／年	1992年 2月	
		中関		自動車用手動変速機、自動変速機		1981年12月	537千㎡

プレス工業株式会社	尾道工場	ボンゴトラック

(注)本社地区には、本社周辺の所在地(渕崎地区)を含む。三次事業所は自動車試験場およびエンジン工場用地の合計。
※ 輸出用のみ。

2015年3月期 生産台数
919,405台

2015年3月期 乗用車 生産台数
903,612台

2015年3月期 商用車 生産台数
15,793台

車種別国内生産台数

(2015年3月31日時点)(台)

	車　名	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
乗用車	デミオ	144,912	165,594	124,287	104,195	100,347
	アクセラ	363,327	317,899	291,181	291,414	232,567
	プレマシー	81,282	89,180	57,585	48,459	37,211
	アテンザ	72,594	48,795	88,017	143,162	143,610
	MPV	6,093	6,501	2,524	1,615	788
	CX-3	—	—	—	—	16,504
	CX-5	—	46,699	226,606	308,720	316,288
	CX-7	91,739	77,986	3,081	500	—
	CX-9	48,694	43,075	40,652	31,921	37,893
	ロードスター	19,503	14,406	15,133	10,778	10,008
	RX-8	2,019	1,716	1,224	—	—
	ベリーサ	8,969	8,612	4,710	3,548	1,248
	ビアンテ	11,182	10,562	8,626	11,898	7,148
	トリビュート／エスケープ	—	—	—	—	—
	計	850,314	831,025	863,626	956,210	903,612
商用車	ボンゴ(バン・トラック)	15,146	15,549	15,503	16,323	15,793
	ボンゴブローニイ(バン・トラック)	1,058	—	—	—	—
	タイタン・タイタンダッシュ	474	—	—	—	—
	計	16,678	15,549	15,503	16,323	15,793
	総合計	866,992	846,574	879,129	972,533	919,405
内数	ロータリーエンジン搭載車	2,019	1,716	1,224	—	—
	ディーゼルエンジン搭載車	71,308	46,228	95,852	135,464	161,714

地域別の活動／日本

日本での販売活動

主要販売網

（2015年3月31日時点）

	販売会社数	店舗数
マツダ／マツダアンフィニ系	49	816
マツダオートザム系	191	210
合　計	240	1,026

チャネル別販売車種

	登録乗用車										軽乗用車					商用車			
	デミオ	アクセラ	プレマシー	アテンザ	MPV	CX-3	CX-5	ロードスター	ベリーサ	ビアンテ	キャロル	フレア	フレアワゴン	フレアクロスオーバー	スクラムワゴン	ボンゴバン・トラック	タイタン	ファミリアバン	スクラムバン・トラック
マツダ／マツダアンフィニ系	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マツダオートザム系	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●			●

2015年3月期 販売台数
224,540台

2015年3月期 乗用車 販売台数
200,858台

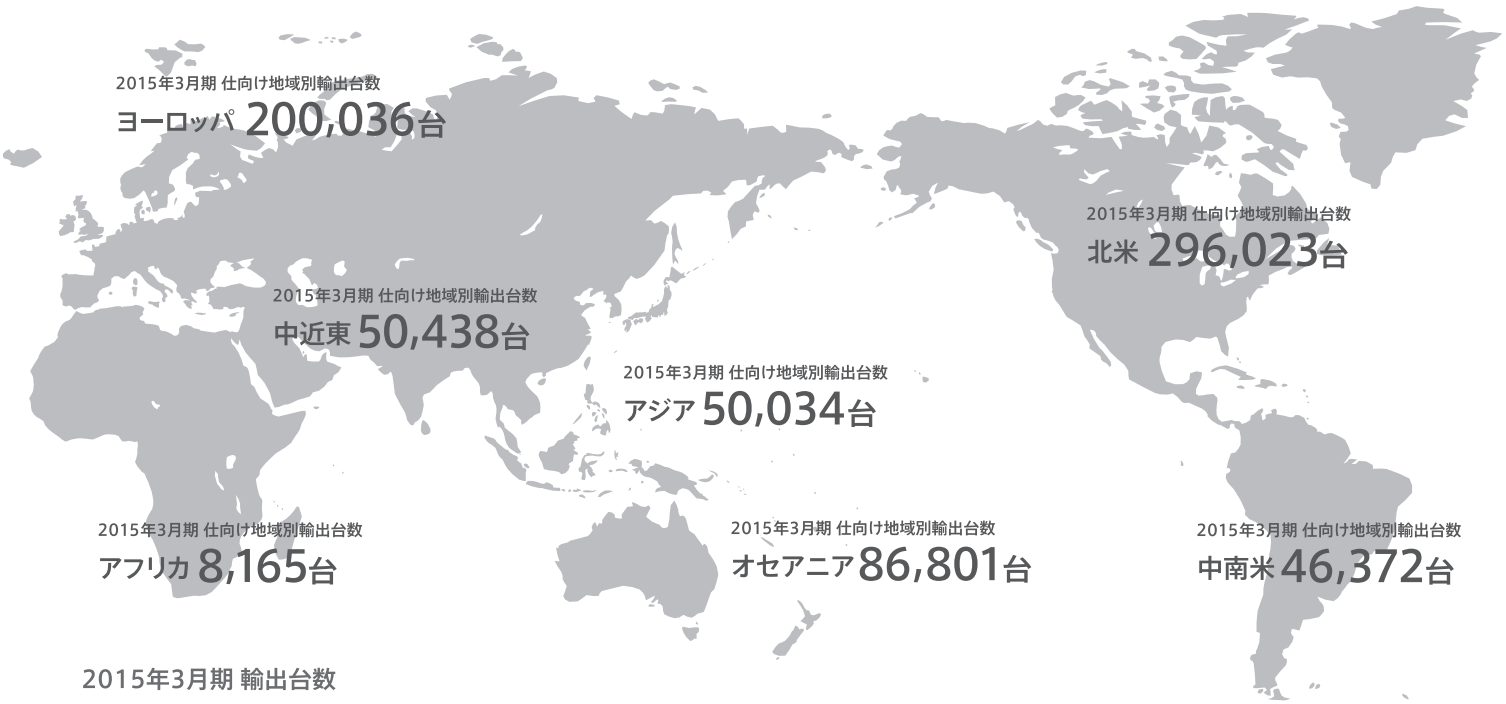
2015年3月期 商用車 販売台数
23,682台

車名別販売台数

（2015年3月31日時点）（台）

	車　名	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
乗用車	デミオ	60,666	66,110	52,691	40,800	62,920
	アクセラ	22,875	20,287	14,040	31,827	33,217
	プレマシー	25,195	20,524	14,389	17,540	8,802
	アテンザ	5,604	4,179	11,149	20,417	11,502
	MPV	5,568	4,760	2,259	1,203	480
	CX-3	—	—	—	—	7,991
	CX-5	—	5,307	40,762	39,073	27,496
	CX-7	565	416	19	0	0
	ロードスター	979	1,168	888	722	462
	RX-8	896	1,509	1,241	42	2
	ベリーサ	9,264	7,793	5,134	3,979	1,446
	ビアンテ	11,333	10,117	7,111	9,355	4,165
	登録車	142,945	142,170	149,683	164,958	158,483
	キャロル	10,909	10,579	9,592	9,625	8,277
	AZ-ワゴン/フレア	22,979	23,805	23,191	19,146	11,439
	AZ-オフロード	412	498	394	373	2
	フレアクロスオーバー	—	—	—	2,394	10,314
	スクラムワゴン	2,262	2,988	2,144	1,641	1,131
	フレアワゴン	—	—	5,829	17,974	11,212
	軽自動車	36,562	37,870	41,150	51,153	42,375
計		179,507	180,040	190,833	216,111	200,858
商用車	ファミリアバン	2,723	2,651	2,529	2,232	2,195
	ボンゴ（バン・トラック）	9,921	9,272	9,887	10,560	9,377
	ボンゴブローニイ（バン・トラック）	589	25	—	—	—
	タイタン・タイタンダッシュ	2,693	2,230	2,233	2,597	2,389
	登録車	15,926	14,178	14,649	15,389	13,961
	スクラム（バン・トラック）	10,452	11,320	10,775	12,098	9,721
	軽自動車	10,452	11,320	10,775	12,098	9,721
計		26,378	25,498	25,424	27,487	23,682
総　合　計		205,885	205,538	216,257	243,598	224,540

輸出活動



2015年3月期 輸出台数

737,869台

仕向け地域別輸出台数

(2015年3月31日時点)(台)

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
北米	284,204	278,911	342,833	345,138	296,023
ヨーロッパ	208,927	173,928	165,874	203,144	200,036
オセアニア	70,532	90,660	97,586	97,871	86,801
中近東	56,275	22,746	21,228	34,541	50,438
アジア	42,873	35,323	31,958	44,116	50,034
アフリカ	7,235	4,420	4,429	4,711	8,165
中南米	49,399	47,859	38,700	61,279	46,372
総　合　計	719,445	653,847	702,608	790,800	737,869

車名別輸出台数

(2015年3月31日時点)(台)

	車　名	海外名	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
乗用車	デミオ	Mazda2	87,129	95,631	70,952	66,123	38,139
	アクセラ	Mazda3	343,347	291,042	280,067	259,646	199,302
	プレマシー	Mazda5	56,860	49,083	39,915	29,113	28,154
	アテンザ	Mazda6	68,369	44,467	66,816	120,515	128,713
	MPV	Mazda8	818	1,206	867	464	315
	CX-3	Mazda CX-3	—	—	—	—	6,277
	CX-5	Mazda CX-5	—	38,953	183,533	269,737	286,007
	CX-7	Mazda CX-7	92,470	77,581	3,132	580	0
	CX-9	Mazda CX-9	49,239	42,722	40,640	31,795	37,766
	ロードスター	Mazda MX-5 ※2	18,716	13,026	14,234	10,134	9,690
	RX-8	Mazda RX-8	1,154	136	19	—	—
	ビアンテ	Mazda Biante	—	—	2,433	2,693	3,506
	トリビュート／エスケープ	Mazda Tribute／Ford Escape	700	—	—	—	—
	計		718,802	653,847	702,608	790,800	737,869
	商　用　車　計		643	—	—	—	—
	総　合　計		719,445	653,847	702,608	790,800	737,869

(注) 海外生産用部品(KDセット)を除く。
※2 北米向けには「Miata」のサブネームがつく。

地域別の活動／北米

●マツダは1968年にカナダ、1971年に米国にて現地法人を設立し、北米でのマツダ車の販売を開始しました。

●メキシコでは、住友商事との合弁生産拠点を2014年1月に操業を開始しました。

統括拠点

(2015年3月31日現在)

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
米　国	❶ マツダノースアメリカンオペレーションズ Mazda North American Operations (略称:MNAO)	カリフォルニア州 アーバイン	1997年10月	—	自動車・部品の卸売販売、北米市場における技術動向などの調査・研究、デザインの開発、商品適合性評価	—

※1「マツダモーターオブアメリカ, Inc.」「マツダ・モトール・デ・メヒコ, S. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ(MNAO)」と呼んでいる。

生産拠点

(2015年3月31日現在)

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
メキシコ	❷ マツダデメヒコビークルオペレーション※ Mazda de Mexico Vehicle Operation(略称: MMVO)	グアナファト州 サラマンカ	2014年1月	5,785名	デミオ、アクセラ	マツダ　70% 住友商事　30%

※「マツダ モトール マヌファクトゥリング デ メヒコS.A. de C.V.」および「マツダモトールオペラシオネスデメヒコS.A. de C.V.」の総称

販売拠点

(2015年3月31日現在)

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
米　国	マツダモーターオブアメリカ, Inc. Mazda Motor of America, Inc.	カリフォルニア州アーバイン	1971年 2月	761名	マツダ　100%
カナダ	マツダカナダ, Inc. Mazda Canada Inc.	オンタリオ州リッチモンドヒル	1968年 7月	141名	マツダ　100%
メキシコ	マツダ デ メヒコ セールス アンド コマーシャルオペレーション※ Mazda de Mexico Sales & Commercial Operation	メキシコシティ	2004年12月	66名	マツダ　99% マツダモーターインターナショナル 1%

※「マツダ モトール デ メヒコ, S de R.L de C.V.」および「マツダセルヴィシオス デ メヒコS. de R.L. de C.V.」の総称

2015年3月期 生産台数

140,089台

2015年3月期 販売台数

422,736台

2015年３月期 生産台数

メキシコ	140,089台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

2015年３月期 販売台数

米国	305,788台
カナダ	71,582台
メキシコ	45,366台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）外観

Mazda3（メキシコ生産モデル）

生産台数

（2015年3月31日時点）（台）

国／地域名	名　称	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
米　国	オートアライアンス･インターナショナル, Inc.	44,875	47,101	19,101	–	–
	フォード カンザスシティ工場	7,725	1,523	–	–	–
	合　計	52,600	48,624	19,101	0	0
メキシコ	MMVO	–	–	–	10,007	140,089
総　合　計		52,600	48,624	19,101	10,007	140,089

（注）マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

（2015年3月31日時点）（台）

市　場	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
米　国	238,184	267,891	273,307	283,721	305,788
カナダ	75,055	71,783	72,136	69,685	71,582
メキシコ	26,473	30,071	25,283	34,759	45,366
合　計	339,712	369,745	370,726	388,165	422,736

市場およびディストリビューター数

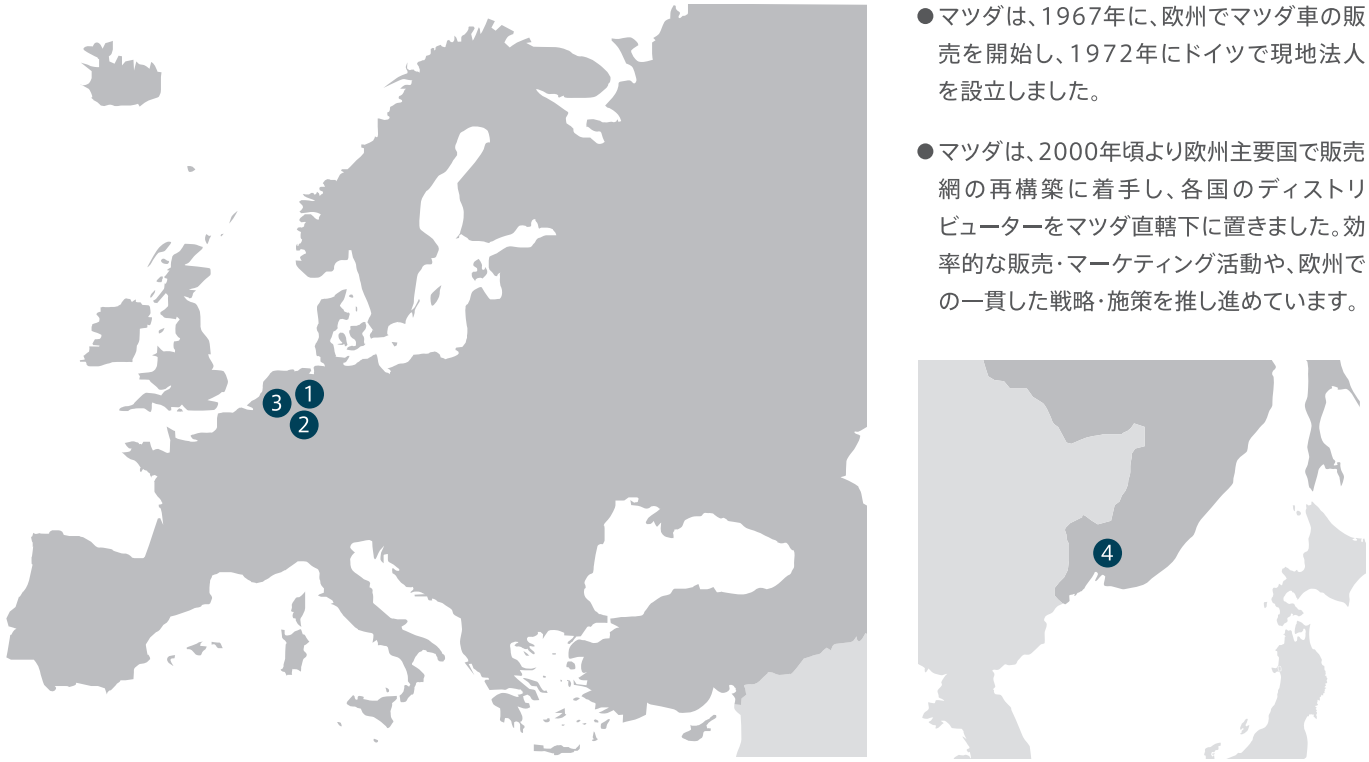
（2015年3月31日時点）

市　場	市場数	ディストリビューター数	拠点数
米　国	1	1	638
カナダ	1	1	165
メキシコ	1	1	54
合　計	3	3	857

主要販売車種

市　場	米国	カナダ	メキシコ
Mazda2（日本名：デミオ）			●
Mazda3（日本名：アクセラ）	●	●	●
Mazda5（日本名：プレマシー）	●	●	
Mazda6（日本名：アテンザ）	●	●	●
CX-3	●	●	
CX-5	●	●	●
CX-9	●	●	●
MX-5（日本名：ロードスター）	●	●	●

地域別の活動／欧州



●マツダは、1967年に、欧州でマツダ車の販売を開始し、1972年にドイツで現地法人を設立しました。

●マツダは、2000年頃より欧州主要国で販売網の再構築に着手し、各国のディストリビューターをマツダ直轄下に置きました。効率的な販売・マーケティング活動や、欧州での一貫した戦略・施策を推し進めています。

統括拠点

（2015年3月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
ドイツ	❶ マツダモーターヨーロッパGmbH Mazda Motor Europe GmbH（略称：MME）	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1998年 3月	289名	事業所 販売	マツダモーター ロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
	❷ (European R&D Centre)	ヘッセン州オーバーウァゼル	1987年12月		研究開発	
ベルギー	❸ マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. Mazda Motor Logistics Europe N.V. (Vehicles and Parts Distribution Center)	アントワープ州ウィルブローク	1998年 8月	347名	事業所 物流、販売	マツダ　100%

生産拠点

（2015年3月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種※1	資本構成
ロシア	❹ マツダソラーズマヌファクトゥリングルースLLC MAZDA SOLLERS Manufacturing Rus LLC（略称：MSMR）	プリモリスキー州 ウラジオストク	2012年10月	594名	CX-5、 アテンザ	マツダ　50% ソラーズ　50%

※1 現地組立のみ（生産台数は公表対象外）

販売拠点

（2015年3月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ドイツ	マツダモータース（ドイツランド）GmbH Mazda Motors (Deutschland) GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1972年11月	149名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
オーストリア	マツダオーストリアGmbH Mazda Austria GmbH	クラーゲンフルト	1981年 7月	103名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
ポルトガル	マツダモトールデポルトガルLda. Mazda Motor de Portugal Lda.	リスボン	1995年 2月	15名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
イタリア	マツダモーターイタリア,S.p.A. Mazda Motor Italia S.p.A.	ローマ	1999年12月	48名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
スペイン	マツダオートモービルズエスパーニャ,S.A. Mazda Automoviles Espana, S.A.	マドリッド	2000年 2月	45名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
フランス	マツダオトモビルフランスS.A.S Mazda Automobiles France S.A.S	イヴリーヌ県 サン・ジェルマン・アン・レイ	2001年 2月	47名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
スイス	マツダスイスS.A. Mazda (Suisse) S.A.	プチランシー	2001年 2月	41名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%

販売拠点

（2015年3月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
イギリス	マツダモータース UK Ltd. Mazda Motors UK Ltd.	ケント州ダートフォード	2001年 5月	99名	マツダ　75%、 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 25%
デンマーク	マツダモーターデンマーク Mazda Motor Denmark	レズオウア	2003年 4月	17名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
ノルウェー	マツダモーターノルウェー Mazda Motor Norge	コルボン	2004年 4月	16名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
スウェーデン	マツダモータースウェーデン Mazda Motor Sweden	クングスバッカ	2004年 4月	16名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
ロシア	マツダモーターロシア, OOO Mazda Motor Rus , OOO	モスクワ	2005年12月	88名	マツダ　100%
アイルランド	マツダモーターアイルランド Mazda Motor Ireland	ダブリン	2006年 7月	8名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
チェコ	マツダモーターチェコ Mazda Motor Czech	プラハ	2006年10月	13名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
スロバキア	マツダモータースロバキア Mazda Motor Slovakia	ブラチスラバ	2006年10月	4名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
ベルギー・ ルクセンブルク	マツダモーターベラックス Mazda Motor Belux	ウィルブローク	2007年 4月	33名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
ハンガリー	マツダモーターハンガリー Mazda Motor Hungary Kft	ブダペスト	2008年 4月	11名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパ N.V.　100%
クロアチア	マツダモータークロアチア Mazda Motor Croatia d.o.o.	ザグレブ	2008年 4月	11名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパ N.V.　100%
スロベニア	マツダモータースロベニア Mazda Motor Slovenija d.o.o.	リュブリャナ	2008年 4月	7名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパ N.V.　100%
ポーランド	マツダモーターポーランド Mazda Motor Poland Co., Ltd.	ワルシャワ	2008年 5月	21名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
トルコ	マツダモーターロジスティクスヨーロッN.V. メルケジ・ベルチカ・トゥルキェ・イスタンブル・シュベシィ Mazda Motor Logistics Europe N.V. Merkezi Belcika Turkiye Istanbul Subesi	イスタンブール	2008年 6月	12名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店
オランダ	マツダモーターネーデルランド Mazda Motor Nederland	ワディンクスフェーン	2008年10月	32名	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. 支店

2015年3月期 販売台数

229,133台

2015年３月期　販売台数

ドイツ	51,442台	イギリス	40,017台
ロシア	46,349台	その他	91,325台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

販売台数

（2015年3月31日時点）（台）

市　場	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
欧　州	211,484	182,683	171,540	206,724	229,133

市場およびディストリビューター数

（2015年3月31日時点）

市　場	市場数	ディストリビューター数	拠点数
欧　州	40	31	1,717

主要販売車種

市　場	ドイツ	ロシア	イギリス
Mazda2（日本名：デミオ）	●		●
Mazda3（日本名：アクセラ）	●	●	●
Mazda5（日本名：プレマシー）	●		●
Mazda6（日本名：アテンザ）	●	●	●
CX-3	●		●
CX-5	●	●	●
CX-9		●	
MX-5（日本名：ロードスター）	●		●

地域別の活動／中国

●マツダは、2001年より本格的に中国市場に進出しました。2005年に現地法人を設立し、2つの販売チャネルである「一汽マツダ」「長安マツダ」を統括して、一貫したブランド戦略を展開しています。

●2014年4月に新型「アテンザ」を長春工場で、新型「アクセラ」を南京工場で生産を開始しました。

統括拠点

（2015年3月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
中　国	❶ マツダ（中国）企業管理有限公司 Mazda Motor (China) Co., Ltd.（略称：MCO）	上海市 浦東新区	2005年 1月	113名	中国市場の事業統括	マツダ 100%
	❷ マツダ（中国）企業管理有限公司　北京分公司 Mazda Motor (China) Co., Ltd. Beijing Branch （略称：MCO-Beijing）	北京市 朝陽区	2007年 11月		MCO支社	—
	❶ マツダ（中国）企業管理有限公司 中国技術支援センター Mazda Motor (China) Co., Ltd. China Engineering Support Center（略称：MCO-CESC）	上海市 嘉定区	2005年 8月		MCO支社・事務所・ワークショップ 技術動向などの調査、研究、およびR&D、 購買、品質、サービス領域の技術支援	—

生産拠点

（2015年3月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
中　国	❸ 一汽乗用車有限公司 FAW Car Co., Ltd.（略称：FCC）	吉林省 長春市	2003年　3月	—	アテンザ、MPV、 CX-7	現地　100%
	❹ 長安マツダ汽車有限公司 Changan Mazda Automobile Co., Ltd.（略称：CMA）	江蘇省 南京市	2007年10月	4,300名	デミオ、アクセラ、 CX-5	長安汽車 50% マツダ　50%
	❹ 長安フォードマツダエンジン有限公司 Changan Ford Mazda Engine Co., Ltd.（略称：CFME）	江蘇省 南京市	2007年　4月 （2005年9月設立）	2,259名	自動車用エンジン	長安汽車 50% マツダ　25% フォード　25%

販売拠点

（2015年3月31日現在）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
中　国	一汽マツダ汽車販売有限公司 FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd.（略称：FMSC）	吉林省 長春市	2005年　3月	334名	一汽乗用車　56% マツダ　40% 第一汽車集団　4%
	長安マツダ汽車販売分公司 Changan Mazda Automobile Corporation, LTD. Sales branch（略称：CMAS）	江蘇省 南京市	2007年　4月	263名	長安マツダ汽車 有限公司の販売部門

2015年3月期 生産台数

215,263台

2015年3月期 販売台数

214,627台

Mazda6 ATENZA（中国生産モデル）

Mazda3 AXELA（中国生産モデル）

生産台数

（2015年3月31日時点）（台）

国／地域名	工場名	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
中　国	FCC	153,490	111,447	100,371	118,435	97,470
	CMA	86,811	85,438	57,563	72,120	117,793
合　計		240,301	196,885	157,934	190,555	215,263

（注）マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

（2015年3月31日時点）（台）

市　場	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
中　国	235,800	222,635	174,687	196,483	214,627

市場およびディストリビューター数

（2015年3月31日時点）

市　場	市場数	ディストリビューター数	拠点数
中　国	1	2	455

主要販売車種

市　場	中国
Mazda2（日本名：デミオ）	●
Mazda3（日本名：アクセラ）	●
Mazda5（日本名：プレマシー）	●
Mazda6（日本名：アテンザ）	●
Mazda8（日本名：MPV）	●
CX-3	
CX-5	●
CX-7	●
CX-9	
MX-5（日本名：ロードスター）	

地域別の活動／アジア・大洋州

●マツダは、1967年に初の海外拠点としてオーストラリアに現地法人を設立し、販売を開始しました。

●タイでは、1998年にフォードとの合弁生産工場にて、ピックアップトラックの現地生産を開始し、その後、「デミオ」、「アクセラ」と生産車種を拡大しています。

●2015年1月より新トランスミッション工場が稼働しています。

統括会社

(2015年3月31日時点)

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
タ　イ	❶ マツダサウスイーストアジアリミテッド Mazda South East Asia, Ltd. (略称：MSEA)	バンコク	2005年　8月	—	ASEAN市場の事業統括	マツダ　100%

生産拠点

(2015年3月31日時点)

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
台　湾	❷ 福特六和汽車股份公司 Ford Lio Ho Motor Co., Ltd. (略称：FLH)	中歴市	1987年　3月	—	プレマシー	フォード　70% 現　地　30%
タ　イ	❸ オートアライアンス(タイランド)Co., Ltd. AutoAlliance (Thailand) Co., Ltd.(略称：AAT)	ラヨーン県イースタン・シーボード工業団地	1998年　5月※1 (1995年11月設立)	7,143名	デミオ、アクセラ、BT-50	マツダ　50% フォード　50%
	❸ マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド) Co., Ltd. Mazda Powertrain Manufacturing (Thailand) Co., Ltd(略名：MPMT)	チョンブリ県	2015年　1月	530名※2	自動車用トランスミッション	マツダ　100%
ベトナム	❹ ヴィナマツダCo.,LTD Vina Mazda Automobile Manufacturing Co.,LTD	クアンナム省ヌイタン地区	2011年10月	—	デミオ、アクセラ、アテンザ、CX-5	現　地　100%
マレーシア	❺ マツダ・マレーシア Sdn. Bhd. Mazda Malaysia Sdn. Bhd. (略称：MMSB)	スランゴール州シャーアラム	2012年　9月設立※3	72名	アクセラ、CX-5	マツダ　70% 現　地　30%

(注)ヴィナマツダ社は一部車種、マツダマレーシア社は全量現地組立のみ(生産台数は公表対象外)。
※1 乗用車は2009年9月に生産開始。※2 従業員数は2015年8月末時点　※3 マツダマレーシア社の設立年月を指す。マレーシアでの組立事業は、現地資本に委託した2011年3月より行っている。

販売拠点

(2015年3月31日時点)

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
オーストラリア	マツダオーストラリアPty Ltd. Mazda Australia Pty Ltd.	ビクトリア州マウントウエイバリー	1967年　4月	266名	マツダ　100%
ニュージーランド	マツダモータースオブニュージーランドLtd. Mazda Motors of New Zealand Ltd.	オークランド市マウントウエリントン	1972年　6月	42名	マツダ　100%
タ　イ	マツダセールス(タイランド)Co., Ltd. Mazda Sales (Thailand) Co., Ltd.	バンコク	1990年　6月	178名	マツダ　96.1% KKS　3.9%
インドネシア	PT. マツダモーターインドネシア PT. Mazda Motor Indonesia	ジャカルタ	2006年　2月	87名	マツダ　99.96% MSEA　0.04%
台　湾	台湾マツダ汽車股份有限公司 Mazda Motor Taiwan Co., Ltd.	台北市	2013年12月	50名	マツダ　100%

2015年3月期 生産台数

90,794台

2015年3月期 販売台数

203,168台

2015年３月期 生産台数	
タイ	84,540台
台湾	5,454台
ベトナム	800台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

2015年３月期 販売台数(アジア)	
タイ	34,490台
台湾	15,389台
マレーシア	12,096台
その他	29,543台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

2015年３月期 販売台数(オセアニア)	
オーストラリア	101,199台
ニュージーランド	8,594台
その他	1,857台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

マツダパワートレインマニュファクチャリング(タイランド)Co., Ltd.

BT-50(タイ生産モデル)

生産台数

(2015年3月31日時点)(台)

国／地域名	名　称	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
台　湾	FLH	3,521	3,571	4,348	6,089	5,454
タ　イ	AAT	95,657	76,185	120,746	77,351	84,540
ベトナム	ヴィナマツダ	―	―	173	720	800

(注)マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

(2015年3月31日時点)(台)

地　域	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
アジア※5	72,390	82,517	114,982	89,445	91,518
オセアニア	93,797	98,849	111,282	112,608	111,650

※5 台湾含む。中国を除く。

市場およびディストリビューター数 (2015年3月31日現在)

地　域	市場数	ディストリビューター数	拠点数
アジア※6	16	16	356
オセアニア	14	14	177

※6 台湾含む。中国を除く。

主要販売車種

地　域	アジア				オセアニア	
市　場	タイ	台湾	マレーシア	インドネシア	オーストラリア	ニュージーランド
Mazda2(日本名:デミオ)	●	●	●	●	●	●
Mazda3(日本名:アクセラ)	●	●	●		●	●
Mazda5(日本名:プレマシー)		●	●			
Mazda6(日本名:アテンザ)		●	●	●	●	●
Mazda8(日本名:MPV)			●	●		
CX-3					●	●
CX-5	●	●	●	●	●	●
CX-9	●		●	●	●	●
MX-5(日本名:ロードスター)	●		●		●	●
Biante			●	●		
VX-1				●		
BT-50	●		●	●	●	●

地域別の活動／中近東・アフリカ・カリブ・中南米

生産拠点

（2015年3月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	マツダ車生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
南アフリカ	❶ フォードモーターカンパニーオブ サザンアフリカ(Pty) Ltd Ford Motor Company of Southern Africa (Pty) Ltd（略称:FMCSA）	プレトリア	1963年 6月	—	BT-50	フォード 100%
エクアドル	❷ マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イ レプエストス エクアトリアノス S.A. Manufacturas, Armadurias y Repuestos Equatorianos S. A.（略称:MARESA）	キト	1986年11月	—	BT-50	現地 100%

販売拠点

（2015年3月31日時点）

国／地域名	名　称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
コロンビア	マツダ デ コロンビア S.A.S Mazda de Colombia S.A.S（略称:MCOL）	ボゴタ	2014年 5月	57名	マツダ 100%
南アフリカ	マツダサザンアフリカ(Pty) Ltd Mazda Southern Africa (Pty) Ltd(略称:MSA)	ミッドランド	2013年 7月	41名	マツダ 70% 伊藤忠商事 30%

2015年3月期 生産台数

9,513台

2015年3月期 販売台数

101,081台

2015年３月期 生産台数(アフリカ)	
南アフリカ	2,283台

2015年３月期 生産台数(中南米)	
エクアドル	6,879台
コロンビア	351台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

2015年３月期 販売台数(中近東)	
イスラエル	17,285台
サウジアラビア	14,202台
その他	13,203台

2015年３月期 販売台数(アフリカ)	
南アフリカ	5,654台
その他	5,814台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

2015年３月期 販売台数(中南米)	
コロンビア	12,137台
チリ	11,120台
エクアドル	6,510台
その他	15,156台

上記台数は2015年3月31日時点のものです。

生産台数

(2015年3月31日時点)(台)

国／地域名	名　称	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
南アフリカ	FMCSA	3,690	2,951	3,098	3,154	2,283
ジンバブエ	WMMI	337	813	246	1	0
コロンビア	CCA	5,018	3,223	3,905	2,044	351
エクアドル	MARESA	9,378	6,108	11,334	6,842	6,879

(注)マツダブランド名で生産された台数を示す。

販売台数

(2015年3月31日時点)(台)

地　域	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
カリブ・中南米※	43,464	38,402	35,313	42,344	44,923
中近東	54,078	33,410	29,852	39,408	44,690
アフリカ	15,582	12,595	9,824	11,494	11,468

※ メキシコを除く。

市場およびディストリビューター数 (2015年3月31日時点)

地　域	市場数	ディストリビューター数	拠点数
カリブ・中南米※	38	37	245
中近東	13	13	216
アフリカ	39	27	149

※ メキシコを除く。

主要販売車種

地　域	カリブ・中南米			中近東		アフリカ
市　場	コロンビア	チリ	エクアドル	イスラエル	サウジアラビア	南アフリカ
Mazda2(日本名:デミオ)	●	●		●		●
Mazda3(日本名:アクセラ)	●	●	●	●	●	●
Mazda5(日本名:プレマシー)		●		●		●
Mazda6(日本名:アテンザ)	●	●		●	●	●
CX-3						
CX-5	●	●	●	●	●	●
CX-9	●	●	●		●	
MX-5(日本名:ロードスター)	●			●	●	●
BT-50	●	●	●		●	●

環境・安全技術　デザイン

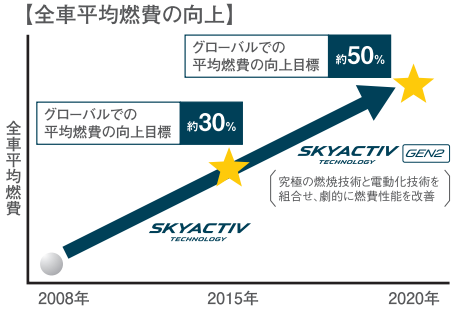
「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言」

「マツダ車をご購入いただいたすべてのお客さまに『走る歓び』と『優れた環境・安全性能』を提供する」ことを基本ポリシーとする技術開発の長期ビジョン「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言」を発表しました（2007年３月発表）。これは、いつまでも「ワクワク」するクルマ、「見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる」クルマを提供し、クルマも、人も、地球も、みんながワクワクし続けられる、サステイナブルな未来の実現に向けて取り組むことを宣言したものです。

2020年までに マツダ車の全車平均燃費を50%向上

技術開発の長期ビジョン「サステイナブル “Zoom-Zoom” 宣言」のもと、燃費向上によりCO2排出量を削減し、マツダ車をご購入いただいたすべてのお客さまに走る歓びと優れた環境性能を提供していきます。マツダは、2015年4月、新たに「2020年までに、グローバルで販売するマツダ車の全車平均燃費を2008年比で50%向上させる」という目標を掲げました。

【全車平均燃費の向上】



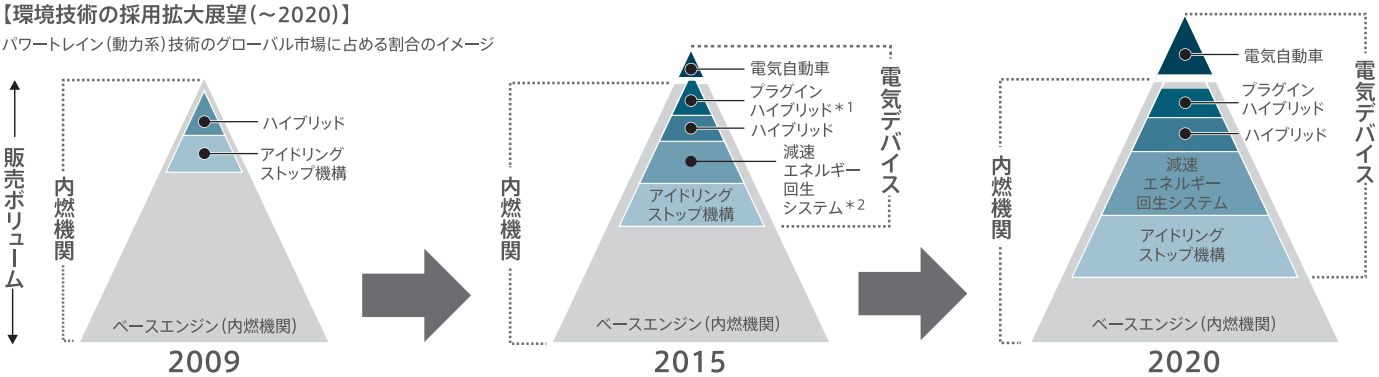
＊ GEN=Generationの略。

「ビルディングブロック戦略」の推進

マツダ車の燃費向上の目標達成に向け、「ビルディングブロック戦略」を採用しています。マツダは、2020年時点でもグローバル市場における自動車の主要なエネルギーは石油であり、動力技術は内燃機関が主流だと予測しています。この予測に基づき、ビルディングブロック戦略では、まず、エンジンの熱効率改善や車両の軽量化などのベース技術を優先的に改善し、さらに段階的に電気デバイス（アイドリングストップシステム、減速エネルギー回生システム、ハイブリッドシステムなど）を導入していきます。これは、一部の環境対応車に大きく依存することなく、特別なインフラ整備のない新興国を含む世界中のお客さまにも手の届きやすい価格で環境性能に優れたクルマを提供することで、グローバルで効果的にCO2の総排出量を削減するアプローチです。

【環境技術の採用拡大展望（～2020）】

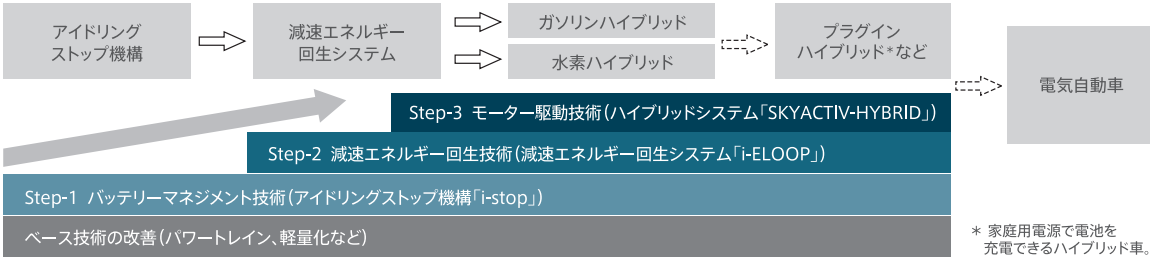
パワートレイン（動力系）技術のグローバル市場に占める割合のイメージ



＊1 家庭用電源で電池を充電できるハイブリッド車。
＊2 減速時に生じるエネルギーを電気に置き換えて再利用するシステム。

【電気デバイス技術の段階的実用化（ビルディングブロック戦略）】

革新的な環境性能を持つベースエンジンに、段階的に電気デバイス技術を組み合わせることで、さらなる環境性能の向上を図ります。



＊ 家庭用電源で電池を充電できるハイブリッド車。

SKYACTIV TECHNOLOGY

「SKYACTIV技術」は、サステイナブル"Zoom-Zoom"宣言に基づいて、「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」の高次元での両立をイメージした革新的な次世代技術の総称です。SKYACTIV技術は「ビルディングブロック戦略」に沿って展開される技術の全てを包含しています。

■ SKYACTIV-G

高圧縮比エンジンの課題であったノッキング（異常燃焼）を克服し、世界一※1の高圧縮比を実現した新世代高効率直噴ガソリンエンジン。

※1 1.3Lクラス レギュラーガソリンを燃料とする量産乗用車。（2013年8月現在 マツダ調べ）

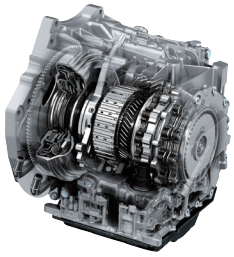
■ SKYACTIV-D

世界一※2の低圧縮比（14.0）の実現により、尿素SCRやNOx吸着触媒（LNT）などの高価なNOx後処理装置なしで、グローバルの排出ガス規制をクリアできる新世代クリーンディーゼルエンジン。

※2 2013年8月現在 マツダ調べ。

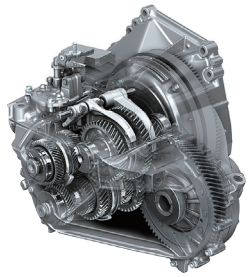
■ SKYACTIV-DRIVE

あらゆる方式の利点を集約した高効率かつダイレクト感溢れる6速オートマチックトランスミッション。



■ SKYACTIV-MT

軽快なシフトフィールと、大幅な軽量・コンパクト化を実現した新世代マニュアルトランスミッション。



■ SKYACTIV BODY

「走る歓び」を支える高い剛性と、最高レベルの衝突安全性を実現した軽量ボディ。

■ SKYACTIV CHASSIS

ロードスター並みの「人馬一体」感を追求し、「走る歓び」を実現すると同時に快適性、安心感を高めた軽量シャシー。

i-ELOOP（アイ・イーループ）

蓄電器にキャパシターを採用した減速エネルギー回生システム。キャパシターは、大量の電気を素早く充放電でき、繰り返し使用しても劣化が少ない特徴をもちます。減速時の車両の運動エネルギーを効率よく電力に変換し、クルマの電装品に使用することで、頻繁に加減速がある実用走行時での燃費改善効果が見込めます。

SKYACTIV-HYBRID

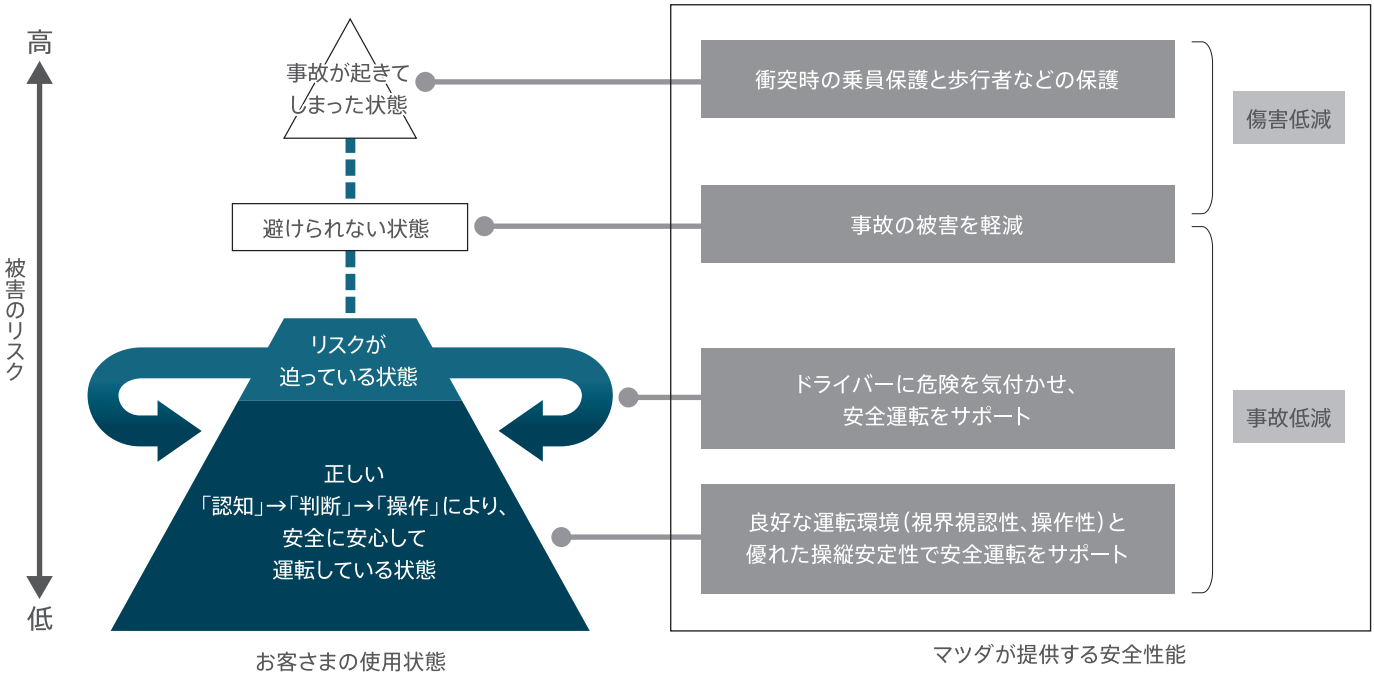
低回転・低負荷時に電気モーターで走行をアシストすることで車全体のエネルギー効率を向上させるシステムです。「i-stop」や「i-ELOOP」を併用することで、さらに高い効率改善（燃費向上）を実現しました。2013年11月に新型「アクセラ」に搭載し日本市場で販売し、「走る歓び」の感動をそのままに、低燃費を実現しています。

環境・安全技術　デザイン

Mazda Proactive Safety

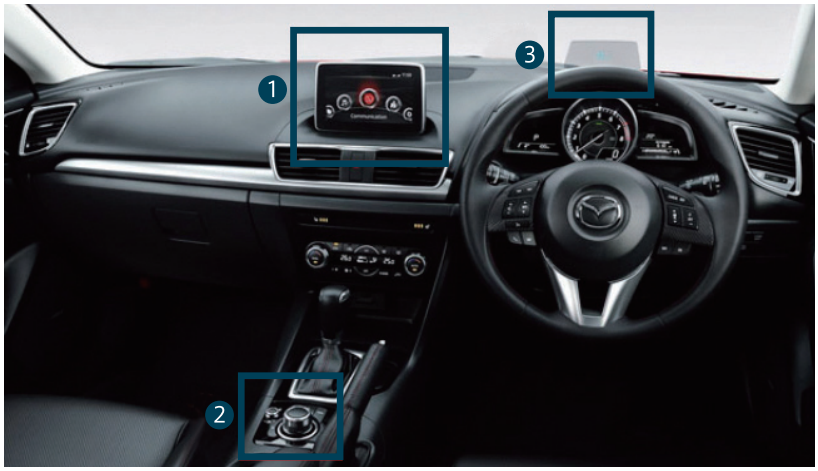
マツダは、ドライバー・人間を理解・信頼・尊重することを重視し、以下の考え方で安全技術の研究・開発を行っています。安全に運転するためには、認知・判断・操作の各ステップで適切に行動することが重要です。運転する環境が変化しても、正しく認知・判断することをサポートし、安全に安心して運転していただきたいと考えています。しかし、人間は時として避けられないミスを起こします。万が一のドライバーのミスにも対応できるように、事故被害を防止・軽減することをサポートする技術を開発・提供していきます。

■マツダが目指す安全性能の考え方



■ HEADS-UP COCKPIT CONCEPT

安全に運転を楽しむために、運転に集中できる理想のドライビングポジションを実現することが最も大切であると考え、正しい姿勢で安全な運転を追求できるヘッズアップコクピットを開発しました。



❶センターディスプレイ

ディスプレイをダッシュボード上に設置し、ドライバーは視線を下方に大きく動かすことなく情報を確認できます。シンプルで見やすいアイコンや文字などを採用しています。

❷コマンダーコントロール

手元を見ることなく操れるよう、ステアリングを握っていた左手を自然に下ろした位置に設置。シンプルで使いやすいボタン配置などを追求しています。

❸アクティブドライビングディスプレイ

ドライバーの視線移動と目の焦点調節が最小限で済むようにディスプレイを設置し、車速やナビゲーションのルート誘導など走行時に必要な情報を表示。

■ i-ACTIVSENSE

「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」は、「Mazda Proactive Safety」に基づき開発したミリ波レーダーやカメラなどの検知デバイスを用いたマツダの先進安全技術の総称です。事故が避けづらい状況での衝突回避・被害軽減を図るプリクラッシュセーフティ技術に加え、認知支援を行いドライバーの安全運転をサポートするアクティブセーフティ技術で構成されています。

「i-ACTIVSENSE」技術一覧

運転支援技術	マツダ レーダークルーズコントロール（MRCC）	先行車との速度差や車間距離を認識し、設定した車速内で車間距離を自動で調整・維持することで、高速道路などでドライバーの負担を軽減します。
認知支援技術	前方衝突警報システム（FOW）	先行車を検知し、ドライバーに衝突の危険性を知らせ、衝突回避をサポートします。
	車線逸脱警報システム（LDWS）	道路上の白線を検知し、車両が意図せず車線を逸脱することを予測してドライバーに警告します。
	リアビークルモニタリングシステム（RVM）	隣（左右）のレーンや後方からの接近車両を検知し、ドライバーに車線変更時の危険を知らせます。
	ハイビームコントロールシステム（HBC）	先行車や対向車を検知し、ヘッドランプのハイビーム・ロービームを自動で切り替え、夜間の視認性を確保し危険回避をサポートします。
	アダプティブフロントライティングシステム（AFS）	ステアリングの角度と車速に応じて、ヘッドランプの向きを自動的にコントロールし、カーブや交差点などで進行方向を早めに照射して夜間時の安全運転をサポートします。
衝突回避支援・被害軽減技術	スマートブレーキサポート（SBS）	15km/h以上の速度域での走行中に、先行車と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速を行い、衝突回避または被害軽減を図ります。
	スマートシティブレーキサポート（SCBS）	4～30km/hの速度域での走行中に、先行車と衝突の危険性がある場合、自動ブレーキにより減速・停止し、衝突回避または被害軽減を図ります。
	AT誤発進抑制制御	前方に障害物が検知された状態で、必要以上にアクセルを踏み込んだ場合、警告音とメーター表示でドライバーに注意を促すとともに、エンジン出力を抑え急発進を抑制します。

デザインテーマ “魂動（こどう）－Soul of Motion”

マツダはこれまで、さまざまな「動き」のある造形を模索してきました。その模索の中でマツダデザインがたどり着いたのは、生物が見せる一瞬の動きの強さや美しさです。この一瞬の動きをMotion Formの究極の姿として見出し、その生命感あふれる動き、心ときめかせる動きを“魂動（こどう）”と定義しました。そして、この“魂動（こどう）- Soul of Motion”というデザインテーマのもと、“動き”の表現を深化させていきます。

左から「マツダ アクセラ」「マツダ デミオ」「マツダ CX-3」「マツダ ロードスター」「マツダ アテンザ」「マツダ CX-5」

社歴 1920 – 2003

経営

1920年 1月 東洋コルク工業株式会社として創立、海塚新八社長就任
1921年 3月 松田重次郎社長就任
1927年 9月 東洋工業株式会社に改称
1929年 4月 工作機械の製作開始
1931年 10月 3輪トラック「マツダ号」を生産開始
1932年 ー 大連、奉天、青島へ3輪トラック初輸出
1935年 10月 さく岩機の生産開始
1945年 8月 建物の一部を広島県に貸与、県庁の全機構が当社に移される（～'46年7月）
1949年 8月 3輪トラック輸出再開（インド）
1951年 12月 松田恒次社長就任
1961年 7月 独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し技術提携
1962年 1月 韓国で現地組立開始
1963年 3月 自動車生産累計100万台達成
6月 南アフリカで現地組立開始
1965年 1月 英国パーキンスサービス社とディーゼルエンジンに関し技術提携
5月 三次自動車試験場完成
1966年 11月 宇品乗用車専用工場完成
1967年 3月 欧州向け本格輸出開始
4月 オーストラリアに販売会社を設立
1968年 7月 カナダに販売会社を設立
1969年 4月 ロータリーエンジン車本格輸出開始
1970年 4月 対米輸出開始
11月 松田耕平社長就任
1971年 2月 マツダモーターオブアメリカ（MMA）設立
1972年 10月 マツダトレーニングセンター鯛尾完成
12月 自動車生産累計500万台達成
1974年 4月 三次ディーゼルエンジン工場完成
1975年 1月 タイで現地組立を開始
1977年 12月 山崎芳樹社長就任
1978年 11月 ロータリーエンジン車生産累計100万台達成
1979年 6月 自動車生産累計1,000万台達成
11月 フォードとの資本提携を開始
1981年 12月 防府中関変速機工場稼働開始
「オートラマ」を設立（'82年10月より商品供給開始）
1982年 9月 防府西浦工場本格操業開始
1983年 4月 コロンビアで現地生産開始（CCA設立）
1984年 5月 マツダ株式会社へ社名変更
10月 マツダ財団設立
11月 山本健一社長就任
1985年 1月 米国生産会社（MMUCのちのAAI）を設立
3月 マツダ北京事務所設立
1986年 4月 ロータリーエンジン車生産累計150万台達成
12月 マツダR&Dセンター、アナーバー（米国）完成
1987年 4月 生産累計2,000万台を達成
6月 技術研究所横浜研究所開設
12月 古田徳昌社長就任
スズキ（株）（鈴木自動車工業）との軽自動車生産協力を発表
1988年 5月 マツダR&Dセンター、アーバイン（米国）完成
1989年 4月 「ユーノス」「オートザム」設立
6月 東京支社を東京本社に呼称変更
1990年 5月 マツダ欧州R&D事務所（MRE）完成
12月 生産累計2,500万台達成
1991年 6月 第59回ル・マン24時間レースでマツダ787Bが日本車史上初の総合優勝
11月 「マツダオート」チャネルを「アンフィニ」に変更
12月 和田淑弘社長就任

商品

1931年 10月 マツダ初の自動車、3輪トラック「マツダ号」新発売
1950年 6月 マツダ初の小型4輪トラック「CA車」新発売
1958年 4月 小型4輪トラック「ロンパー」新発売（後に「Dシリーズ（クラフト）」「Eシリーズ（タイタン）」へ派生）
1960年 5月 軽乗用車「R360クーペ」新発売
1961年 2月 軽4輪トラック「B360」新発売（後に「ポーター」へ改称）
8月 小型4輪トラック「B1500」新発売（後に「プロシード」へ改称）
1962年 2月 軽乗用車「キャロル」新発売
1963年 10月 「ファミリア800バン」新発売
1964年 10月 「ファミリアセダン」新発売
1965年 5月 ライトバス新発売（後に「パークウェイ」へと改称」）
1966年 5月 「ボンゴ」新発売
8月 「ルーチェ」新発売
1967年 5月 初のロータリーエンジン搭載車「コスモスポーツ」新発売
1969年 4月 軽4輪トラック「ポーターキャブ」新発売
10月 中型トラック「ボクサー」新発売
1970年 5月 「カペラ」新発売
1971年 9月 「グランドファミリア」新発売
「サバンナ」新発売
1972年 6月 軽乗用車「シャンテ」新発売
1975年 3月 「ロードペーサー」新発売
10月 「コスモ」新発売
1978年 3月 「サバンナRX-7」新発売
1980年 12月 5代目「ファミリア」が「1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1982年 12月 4代目「カペラ（テルスター）」が「1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1983年 6月 「ボンゴブローニイ」新発売
1986年 2月 「フェスティバ」新発売
1987年 1月 「エチュード」新発売
1988年 10月 「ペルソナ」新発売
1989年 6月 「スクラム」新発売（スズキ（株）からのOEM）
9月 「ユーノスロードスター」新発売
11月 「ユーノス100」「ユーノス300」新発売
1990年 1月 「MPV」新発売
4月 「ユーノスコスモ」新発売
9月 「レビュー」新発売
1991年 5月 「センティア」新発売
6月 「ユーノスプレッソ」「AZ-3」新発売
10月 水素RE自動車「HR-X」を東京モーターショーで発表
「クロノス」新発売
11月 「アンフィニMS-6」「アンフィニMS-9」新発売

1992年 2月 防府第2工場が本格操業を開始
4月 「マツダ地球環境憲章」を制定
9月 中国で現地生産を開始
1993年 3月 環境に関する行動推進計画を策定
5月 米国AAIでの生産累計100万台達成
1994年 11月 国内自動車メーカーで初めて「ISO9002」規格の認証を取得
1995年 4月 生産累計3,000万台達成
11月 タイでAAT設立（工場着工は翌年2月）
1996年 4月 「アンフィニ」店を「マツダアンフィニ」店に呼称変更
「ユーノス」店を「マツダアンフィニ」店または「マツダ店」に統合
6月 開発からアフターサービスまでカバーする「ISO9001」を国内自動車メーカーで初めて取得
ヘンリーD. G. ウォレス社長就任
1997年 6月 「新ブランドシンボル」を制定
10月 北米事業を統合（MNAOスタート）
11月 ジェームズE. ミラー社長就任
12月 倫理委員会を設置
1998年 1月 社章を変更
3月 欧州事業を統合（現MMEスタート）
4月 プロダクトフィロソフィーを制定
5月 AATで生産開始
8月 マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.（MLE）を設立
9月 防府工場・西浦工場がISO14001を取得
12月 AATより輸出開始
1999年 6月 AAIが生産累計200万台を達成
三菱自動車と小型商用車のOEM供給で合意
9月 防府工場が環境ISO認証の取得を完了
12月 マーク・フィールズ社長就任

2000年 4月 通商産業省の支援による燃料電池電気自動車の実車走行試験・共同プロジェクトに参加
6月 全国内生産拠点でISO14001認証を取得
7月 メディアウェブサイトを開設
マツダ、乗用車共通の「ブランドDNA」を策定
8月 タイ製ピックアップトラックが生産累計10万台を達成
11月 中期経営計画「ミレニアムプラン」を発表
2001年 1月 低コストの塗膜除去技術を活用した回収バンパー再生材の用途を拡大し、新車のバンパー補強用部品に採用
2月 日本初、インターネットを使った受注生産（BTO）を開始
9月 宇品第2工場を閉鎖（～'04年5月）
2002年 1月 防府工場が累計生産台数500万台を達成
北海道 中札内試験場を竣工
MZRエンジンの生産を国内で開始
3月 事業所内保育施設「わくわくキッズ園」を設置
4月 新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開
5月 執行役員制度を導入するなどコーポレートガバナンスを強化
6月 ルイス・ブース社長兼CEO就任
8月 マツダレンタリースのリースカー事業を住銀オートリースに売却
9月 マツダアステック（さく岩機製造）をサンドビックグループに営業譲渡
12月 経営諮問委員会を設置し、コーポレートガバナンスを強化
2003年 1月 新世代ロータリーエンジン「RENESIS」の生産を開始
中国一汽乗用車で「Mazda6」の生産開始
フォード バレンシア工場（欧州）で「Mazda2」の生産を開始（～'07年6月）
7月 いすゞ（株）と小型トラックのOEM供給で合意
8月 井巻久一社長兼CEO就任

1992年 1月 「MX-6」新発売
2月 「ユーノス500」新発売
3月 「アンフィニMS-8」新発売
5月 「クレフ」新発売
10月 軽自動車「AZ-1」新発売
11月 天然ガスエンジン搭載乗用車を開発
1993年 1月 「ユーノスロードスター」ベースの高性能電気自動車を開発
4月 ミラーサイクルエンジンの開発に成功
9月 「ランティス」新発売
10月 「ユーノス800」新発売
1994年 2月 「タイタン」天然ガストラックを開発
9月 軽自動車「AZ-ワゴン」新発売（スズキ（株）からのOEM）
商用車「ファミリアバン」、日産自動車（株）からのOEM供給に（5代目）
1995年 2月 「プロシードレバンテ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
6月 「ボンゴフレンディ」新発売
1996年 8月 「デミオ」新発売
10月 初代「デミオ」が「RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1997年 12月 燃料電池電気自動車「デミオFCEV」を開発
1998年 5月 小型キャブオーバーバンの電気自動車「ボンゴEV」を発売
10月 軽自動車「AZ-オフロード」新発売（スズキ（株）からのOEM）
軽自動車「キャロル」、スズキ（株）からのOEM供給に（4代目）
1999年 3月 軽自動車「ラピュタ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
4月 アルデヒド除去剤「ライフ・ブレス」を開発
「プレマシー」新発売

2000年 7月 「ロードスター」が“世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカー”としてギネスに認定（565,779台）
10月 「タイタンダッシュ」新発売
11月 「トリビュート」新発売
2001年 2月 燃料電池自動車「プレマシーFC-EV」を開発、国内初の公道走行試験を開始
12月 新世代モジュール基材用の高強度プラスチック技術を開発
2002年 2月 軽自動車「スピアーノ」新発売（スズキ（株）からのOEM）
5月 次世代商品第一弾として、「アテンザ」新発売
7月 機械加工時の切削液の使用量を大幅削減する「セミドライ加工」で環境への負荷を軽減
世界初の環境にやさしい「スリー・ウエット・オン塗装技術」を開発し、揮発性有機化合物と二酸化炭素（CO_2）を削減
11月 初代「アテンザ」が「2003RJCカー・オブ・ザ・イヤーを受賞」
12月 先進安全自動車（ASV）の公道走行試験を開始
2003年 2月 摩擦熱を利用したアルミ材接合技術を世界で初めて開発
4月 優れた歩行者保護性能を持つ衝撃吸収構造アルミボンネットを開発
5月 PM排出量を現行比で75%以上削減するディーゼルエンジン用の排出ガス低減技術を開発
6月 「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2003」を受賞
9月 塗膜除去率を99.9%まで高めるバンパーリサイクルのための新技術を開発し、「バンパーtoバンパー」リサイクルを実現
10月 「アクセラ」新発売
11月 「RENESIS」が「RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
「RX-8」が「2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
12月 「Mazda6」が中国の「2004年カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

社歴 2004 – 2015

経営

2004年
- 2月 販売系列全店で軽自動車の扱いを開始、登録車も併売を拡大
- 4月 国内生産体制再編のため、本社第1工場での生産を終了
- 5月 国内生産体制再編のため、宇品第2工場を再稼働
- 9月 マツダレンタカーの全株式を譲渡
- 12月 宇品第1工場で火災発生

2005年
- 2月 本社敷地内に水素ステーションを開設
  創業85周年を機に「マツダミュージアム」全面リニューアル
- 4月 広島大学大学院工学研究科と自動車の先進技術の研究協力で契約
  新生宇品第1工場塗装ライン稼働
- 8月 中国技術支援センターを開設

2006年
- 1月 三菱商事とエネルギー供給会社「MCMエネルギーサービス(株)」を設立
- 2月 「Mazda3」を長安フォード重慶工場で生産開始
- 4月 マツダオートザム　販売累計台数100万台達成
- 5月 美祢自動車試験場の開所式を実施
- 7月 自動車運搬船「クーガーエース」事故発生

2007年
- 3月 新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」を策定
  技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“Zoom-Zoom”宣言」を策定
- 4月 長安フォードマツダエンジン工場(南京)でのエンジン量産開始
- 5月 厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得
  ロータリーエンジン車発売40周年を迎える
- 7月 国内生産累計4,000万台を達成
  AATが生産累計100万台を達成
  業界初となる、V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現
  専用コンテナでの鉄道往復輸送によるグリーン物流システムを構築
- 10月 「Mazda2」を長安フォードマツダ南京工場で生産開始

2008年
- 2月 日本初の「人権擁護功労賞」受賞
- 3月 自動車販売金融事業における戦略的提携を実施
- 4月 国内販売会社に環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入
- 6月 ブランドを視覚的に表現するグローバル・ビジュアル・アイデンティティを導入
  CO2排出量削減に向けた取り組みを発表
  ー2015年までにグローバルでマツダ車の燃費を30%向上ー
- 7月 全国規模の部品販売会社、マツダパーツ株式会社を設立
- 9月 シベリア鉄道を利用した車両輸送を開始
- 10月 マツダミュージアム来場者100万人達成
- 11月 山内孝社長兼CEO就任
- 12月 新広島市民球場の命名権契約を締結し、「Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島」と命名

2009年
- 3月 「マツダ(中国)トレーニングセンター」を北京、上海、深センに開設
- 4月 一汽マツダ汽車販売有限公司に増資し、出資比率を25%から40%に引き上げ、販売網を強化
- 7月 AAT新乗用車工場完成

2010年
- 3月 トヨタとハイブリッドシステムの技術ライセンス供与に合意
- 4月 広島大学とマツダ財団の連携事業「科学わくわくプロジェクト」が、「平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰　科学技術賞」を受賞
- 9月 「ひろしまの森林(もり)づくりフォーラム」に加入し、「マツダの森」を通じた地域の森林保全活動に協力開始

商品

2004年
- 5月 「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2.5～3.0リットル」部門賞を2年連続で受賞
- 6月 「ベリーサ」新発売
- 10月 RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
- 11月 マツダのスリー・ウエット・オン塗装技術が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞

2005年
- 3月 「バンパーtoバンパー」リサイクル技術をRX-8から新車のバンパーに導入開始
- 4月 新生宇品第1工場塗装ラインにスリー・ウエット・オン塗装方式を採用
- 6月 世界初、摩擦熱を利用した鉄とアルミ材の点接合技術を開発
- 11月 3代目「ロードスター」が「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

2006年
- 2月 水素ロータリーエンジン車 「RX-8ハイドロジェンRE」 の限定リース販売を開始
- 5月 産学官の連携で、自動車内装部品用に高強度、高耐熱性を持つバイオプラスチックを開発
- 11月 「MPV」2.3L　DISIターボエンジン車がエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)を受賞
- 12月 「CX-7」新発売

2007年
- 9月 植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発
- 10月 世界初となるシングルナノテクノロジーを活用した触媒材料構造を持つ自動車用触媒を開発
- 11月 3代目「デミオ」が「2008年次RJCカーオブザイヤー」を受賞
  ノルウェー国家プロジェクトHyNor(ハイノール)に参画し、2008年夏から水素ロータリーエンジン車をノルウェーに納入

2008年
- 1月 広島地区の産学官共同でITS公道実証実験を実施
  国内初のリアビークルモニタリングシステムを実用化
- 3月 3代目「Mazda2」が「2008世界カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
  先進安全自動車「マツダASV-4」の公道走行試験を開始
- 6月 食糧と競合しないバイオプラスチックの技術開発に、産学官連携で2013年までの実用化を目指して着手
  「マツダ　プレマシー　ハイドロジェンREハイブリッド」の国土交通大臣認定を取得
- 7月 「ビアンテ」新発売
- 9月 直噴エンジンの技術を活用した独自のアイドリングストップ機構「アイ・ストップ(i-stop)」を開発
  樹脂の使用量を30%削減できるプラスチック成形技術を開発

2009年
- 1月 貴金属の使用量を約70%削減できるシングルナノ触媒を世界で初めて実用化
- 2月 マツダ、ITS合同実証実験「ITS-Safety 2010」に参加
- 3月 世界初の廃車バンパーリサイクル自動化技術を開発
  日本メーカー初の乗用車用尿素SCRシステムを開発
  世界初のハイブリッドシステム搭載水素ロータリーエンジン車「マツダ　プレマシー　ハイドロジェンREハイブリッド」のリース販売を開始
- 6月 世界で最も環境負荷の少ない新水性塗装技術「アクアテック塗装」を開発、宇品第一工場への導入を開始
- 11月 「i-stop」が「2010年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞
  「i-stop」を搭載した「アクセラ」と「ビアンテ」が第6回エコプロダクツ大賞を受賞
  マツダ、「つくば環境スタイル実証プロジェクト」に参画し、電気自動車のベース車両として「マツダ デミオ」を提供

2011年 1月 日産とマツダ、新たなOEM供給契約を締結
2月 広島大学と包括的連携に関する協定を締結
6月 住友商事とメキシコでの生産事業およびブラジルでの販売事業で合弁事業に合意
社外取締役制度を導入
10月 住友商事とメキシコ新工場の起工式を実施
ベトナム「ヴィナマツダ社」の新工場で「Mazda2」の現地組立を開始
2012年 1月 マツダ病院の新棟（入院棟）を竣工
5月 フィアット社とオープン2 シータースポーツカーの開発・生産に向けた協議を開始
7月 「SKYACTIV-G」、「SKYACTIV-D」エンジンの年間生産能力を80万基に増強
9月 ロシアのソラーズ社と、現地合弁生産会社「マツダソラーズ」を設立
マレーシアのベルマツ社との合弁会社「マツダ・マレーシア」を設立
11月 トヨタと、マツダのメキシコ新工場におけるトヨタ車の生産について合意
2013年 1月 マツダとフィアット、アルファロメオ車の生産に向けた事業契約を締結
4月 山内孝会長 社長兼CEO（当時）が、メキシコの勲章「アギラ・アステカ勲章」を受章
6月 小飼雅道社長兼CEO就任
7月 タイの新トランスミッション工場の起工式を実施
8月 メキシコ新工場にエンジン機械加工工場の新設を発表
国内の「SKYACTIV技術」エンジンの年間生産能力を100万基に増強を発表
防府工場の累計生産台数1,000万台を達成
南アフリカに販売統括会社を設立
広島市民球場の命名権を取得、球場名「Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島」を継続

2014年 1月 メキシコ新工場で量産開始
2月 メキシコ新工場の開所式を実施
3月 タイで新型「Mazda3」の生産を開始
4月 中国で新型「Mazda6」と新型「Mazda3」の生産を開始
5月 マレーシアの車両組立工場（マツダ車専用）が完成
コロンビアの新販売統括会社が営業開始
6月 「アクセラ教習車」の累計生産台数が1万台を達成
7月 台湾の新販売統括会社が営業開始
新型「デミオ」の生産を防府工場で開始
国内市場での新コンセプトの販売店「新世代店舗」を公表
防府工場（中関）の「SKYACTIV技術」トランスミッションの生産能力を増強
8月 「MAZDA TECHNOLOGY FOR KIDS」、第8回キッズデザイン賞「内閣総理大臣賞」受賞
9月 タイで新型「Mazda2」を生産開始
本社ロビーをリニューアル
10月 メキシコで新型「Mazda2」を生産開始
ミャンマー市場に再参入しASEAN加盟国のすべてでマツダ車を販売
12月 「アテンザ」の世界累計生産が300万台を達成
2015年 1月 タイの新トランスミッション工場で量産開始
5月 トヨタと業務提携に向けて基本合意
「ひろしま自動車産学官連携推進会議」の設置を発表
7月 タイで新型「BT-50」を生産開始
9月 三次自動車試験場が開業50周年

2010年 9月 「動き」を表現した新デザインテーマ“魂動（こどう）ーSoul of Motion”を発表
10月 次世代技術「SKYACTIV」を発表
2011年 2月 「ロードスター」が累計生産90万台を達成、ギネス記録更新を申請
5月 「アクセラ」が世界累計生産300万台を達成
6月 高効率直噴ガソリンエンジン「SKYACTIV-G 1.3」を搭載した「デミオ」を発売
9月 SKYACTIV技術搭載第2弾となる「アクセラ」を発売
11月 「RX-8」の最後の特別仕様車「SPIRIT R」を発売
新型エンジン「SKYACTIV-G 1.3」が「2012年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞
乗用車用として世界で初めてキャパシターを採用した減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」を開発
2012年 2月 「SKYACTIV技術」を全面採用し、先進安全技術「スマート・シティ・ブレーキ・サポート」を搭載した、新型クロスオーバーSUV「マツダ CX-5」を新発売
6月 軽自動車「マツダ フレアワゴン」を新発売（スズキ（株）からのOEM）
10月 「デミオEV」のリース販売を開始
11月 「マツダ CX-5 SKYACTIV-D2.2」が、「2012-2013日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー」を受賞
先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ アクティブセンス）」を搭載した、3代目「アテンザ」を発売
「CX-5」が「2012-2013日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

2013年 1月 「プレマシー」をマイナーチェンジ
5月 「ビアンテ」をマイナーチェンジ
9月 先進安全自動車「アテンザ ASV-5」の公道実証実験を開始
11月 3代目「アクセラ」を発売
3代目「アテンザ」が「2013-2014日本カー・オブ・ザ・イヤー エモーショナル部門賞」を受賞
3代目「アテンザ」が「RJCカーオブザイヤー」を受賞
2014年 2月 「アクセラ」が世界累計生産400万台を達成
4月 「SKYACTIV技術」搭載車のグローバル生産台数が100万台を突破
9月 新型「ロードスター」を世界初公開
新型「デミオ」を発表
10月 新型「デミオ」が「2014-2015日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
11月 新型「デミオ」が2014年度「グッドデザイン金賞」を受賞
小排気量クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D 1.5」が、「第11回エコプロダクツ大賞」を受賞
2015年 1月 「アテンザ」と「CX-5」の大幅改良モデルを発表
2月 新型「CX-3」を発表
3月 マツダ3車種が独「レッド・ドット・プロダクトデザイン2015」を受賞
5月 新型「ロードスター」を発表
6月 新型「ロードスター」から「電子取扱説明書」を導入
2015年グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードに参加
7月 新世代ヘッドランプ技術「アダプティブ・LED・ヘッドライト」が「第9回キッズデザイン賞」を受賞
9月 フランクフルトモーターショーで「マツダ越 KOERU」を初公開
ドイツにおいて3つのデザイン賞を受賞
10月 東京モーターショーでコンセプトモデル「Mazda RX-VISION」を世界初公開

■最新情報について

「会社の概要」および「役員」に関する情報に変更があった場合、最新の情報を下記URLのホームページにて掲載します。

http://www.mazda.com/ja/about/profile/

■マツダ株式会社のその他の情報開示ツール

会社概況に加えて、以下のツールでもマツダの考え方、活動、データの情報開示をしています。

サステナビリティレポート

マツダのCSR(企業の社会的責任)についての報告書
http://www.mazda.com/ja/csr/download/

アニュアルレポート

マツダの投資家向け年次報告書
http://www.mazda.com/ja/investors/library/annual/

有価証券報告書など

http://www.mazda.com/ja/investors/library/s-report/

マツダ株式会社

発　行：マツダ株式会社 広報本部

広島本社:広島県安芸郡府中町新地3-1 〒730-8670
東京本社:東京都千代田区内幸町1-1-7 〒100-0011

発行年月:2015年10月

マツダコールセンター 0120-386-919

受付時間／月～金 9:00～17:00
土日・休日 9:00～17:00(12:00～13:00を除く)

マツダホームページURL

http://www.mazda.co.jp/